

目次

序文

一般記号

第1部 総説

第1編 概説

第1章 世界造船界の展望	3	1.2.1.4 内燃機船の建造	5
1.1.1 第一次世界大戦後	3	1.2.1.5 他の事業の兼営	5
1.1.2 第二次世界大戦前	3	1.2.1.6 不況の対策	5
1.1.3 第二次世界大戦中	3	1.2.2 準戦時体制より大東亜戦争へ	5
第2章 わが国造船界の動向	4	1.2.2.1 支那事变勃発後	5
1.2.1 第一次世界大戦後	4	(1)優秀船の建造助成 (2)造船業の統制	
1.2.1.1 戦後の低迷	4	(3)艦艇の建造	
1.2.1.2 軍備縮少と造船業	4	1.2.2.2 大東亜戦争への突入	6
1.2.1.3 命令航路船代船の建造	4	(1)造船の国家管理 (2)計画造船への突入	

第2編 造船界の推移

第1章 工事实績	9	第3章 造船設備	41
2.1.1 新造船	9	2.3.1 昭和初期の造修施設	41
2.1.1.1 商船	9	2.3.2 造修施設の整備変遷	46
2.1.1.2 艦艇	13	(1)三菱重工業株式会社 (2)日立造船株式会社	
2.1.1.3 外地における造船	13	(3)川崎重工業株式会社 (4)三井造船株式会社	
2.1.1.4 木造船	13	(5)石川島重工業株式会社 (6)株式会社播磨造船所	
2.1.2 改造修繕工事	16	(7)日本鋼管株式会社 (8)浦賀船渠株式会社	
第2章 造船企業	35	(9)株式会社藤永田造船所 (10)函館船渠株式会社	
2.2.1 企業基盤	35	第4章 労働事情	50
2.2.2 経営状況	36	2.4.1 従業員の推移	50
(1)経営状況の推移 (2)船価の推移		2.4.1.1 造船産業の興隆	50
2.2.3 企業の消長	38	2.4.1.2 昭和恐慌と大量整理	51
(1)三菱重工業 (2)日立造船 (3)川崎重工業		2.4.1.3 満州事变以後の繁忙時代	51
(4)三井造船 (5)石川島重工業 (6)播磨造船所		2.4.1.4 大東亜戦争下の雇用状況	52
(7)日本鋼管 (8)浦賀船渠		2.4.2 労働時間・賃金	52

2.4.2.1 労働時間の推移	52	2.4.4.3 退職金制度の変遷	55
2.4.2.2 賃金の変遷	52	2.4.4.4 従業員販売制度	55
2.4.3 労働組合	53	2.4.4.5 教育制度	55
2.4.3.1 明治期の活動	53	第5章 造船関連工業	55
2.4.3.2 友愛会の設立と左傾化	53	2.5.1 生産状況	55
2.4.3.3 造船業における労働組合	54	2.5.1.1 ボイラ及び主機関	55
2.4.3.4 労働組合の解散	54	2.5.1.2 補機, ポンプ及び甲板機関	56
2.4.3.5 産報運動	54	2.5.2 製鉄関係	57
2.4.4 安全・厚生・教育	54	2.5.3 その他の関連工業製品	58
2.4.4.1 工場法施行と造船業界	54	(1) 錨鎖 (2) 船舶用金物 (3) 船体用鋳鋼品	
2.4.4.2 健康保険法の施行と従業員の健康管理	54	(4) 救命艇 (5) 鋼索 (6) 船用品 (7) 鍛鋼その他	

第3編 造船技術の発展

第1章 船体	59	3.1.2.2 電気溶接	73
3.1.1 総論	59	(1) 電気溶接のはじまり (2) 商船における	
3.1.1.1 船舶改善助成施設	60	電気溶接 (3) 電気溶接の規格	
3.1.1.2 標準船	60	3.1.3 構造, 強度, 振動	74
(1) 沿革 (2) 平時標準船 (通信省管船局標		3.1.3.1 船体構造様式	74
準船) (3) 戦時標準船 [(a) 第一次戦時標		(1) 縦肋骨式構造 (2) 縦横混合式構造	
準船, (b) 第二次戦時標準船, (c) 第三次戦		(3) 横肋骨式構造	
時標準船, (d) 第四次戦時標準船, (e) その		3.1.3.2 タンカーの区画	76
他]		3.1.3.3 低船尾楼甲板船	76
3.1.1.3 優秀船舶建造助成施設	62	3.1.3.4 船楼端の補強構造	76
3.1.1.4 大型優秀船舶建造助成施設	63	3.1.3.5 船首材	77
3.1.1.5 鋼船の構造規程	63	3.1.3.6 船首船底の補強	77
3.1.1.6 技術の変遷	63	3.1.3.7 船尾材及び舵	77
(1) 不況時の節約 (2) 速力の高速化 (3) デ		3.1.3.8 舷縁円形構造	77
ィーゼル船の盛行 (4) 外観の軽快化		3.1.3.9 二重船殻構造	77
[(a) 傾斜型船首, (b) 巡洋艦型船尾 (又は		3.1.3.10 長大倉口船	78
駆逐艦型船尾), (c) 甲板室の流線型, (d) 船		3.1.3.11 ノーチャー・ノーキャンパ	78
橋, (e) 無煙突船] (5) 減トン甲板口を有		3.1.3.12 振動	78
する遮浪甲板船 (6) タンカーの発達		3.1.4 抵抗, 推進, 旋回	78
(7) 耐水及び砕氷構造 (8) 引船 (9) 特異な		3.1.4.1 抵抗, 推進	78
船 [(a) 潜水調査船, (b) セメント運搬船		(1) 線図 (2) 水面上の流線型 (3) 舵および	
「清忠丸」, (c) その他] (10) 戦時標準船の		船尾材 (4) コルトノズル (5) フォイトシ	
簡易化 (11) 商船の戦時の防護対策 (12) メ		ュナイダ推進器	
ートル法 [(a) 主要寸法, (b) 図面, (c) 容積		3.1.4.2 旋回	80
及び重量, (d) 鋼材の厚さ, (e) 速力及び馬		3.1.5 復原性及び動揺	81
力, (f) 積量等]		第2章 機関	81
3.1.2 材料及び溶接	70	3.2.1 概要	81
3.1.2.1 材料	70	3.2.2 ボイラ	82
(1) 鋼材 [(a) 圧延鋼材, (b) 高張力鋼, (c) 鋳		3.2.2.1 概要	82
鍛鋼] (2) 木材 [(a) 節約, (b) 代用材]		3.2.2.2 立ボイラ	83
(3) 非鉄金属(主なもののみ記す) [(a) 銅管,			
(b) 真鍮, (c) その他]			

3.2.2.3	丸ボイラ	84
3.2.2.4	水管ボイラ	87
3.2.2.5	強制循環ボイラ (ラumont・ボイラ)	90
3.2.2.6	特殊石炭燃焼装置	91
3.2.3	蒸気機関	92
3.2.3.1	概要	92
3.2.3.2	蒸気レシプロ機関	92
	(1)普通の蒸気レシプロ機関 (2)特殊な蒸気レシプロ機関	
3.2.3.3	蒸気タービン	96
	(1)概要 (2)三菱・長崎造船所 (3)三菱・神戸造船所 (4)(株)石川島造船所 (5)(株)川崎造船所 (6)(株)日立製作所助川工場	
3.2.4	内燃機関	119
3.2.4.1	概要	119
3.2.4.2	小型船用発動機の初期時代	119
	(1)石油, 灯油機関 (2)ガス機関 (3)焼玉機関	
3.2.4.3	小型船のディーゼル化	122
	(1)世界における最初のディーゼル機関 (2)わが国における小型船用ディーゼル機関	
3.2.4.4	航洋商船用ディーゼル機関	126
	(1)外国における初期の航洋船用ディーゼル機関 (2)わが国航洋船用ディーゼル機関	
3.2.4.5	船用ディーゼル機関の技術の進歩	135
	(1)船用大型ディーゼル機関の二サイクル化 (2)無気噴油方式への移行 (3)排気タービン過給 (4)軸系, 機関の振動	
3.2.5	軸系装置	137
3.2.5.1	船尾管軸受	137
3.2.5.2	スラスト軸受	137
3.2.5.3	軸の振動に対する諸問題	138
3.2.5.4	プロペラ	138
3.2.6	補機, ポンプ, 甲板機械	139
3.2.6.1	概要	139
3.2.6.2	発電用機関	140
3.2.6.3	機関室ポンプおよび補機	141
	(1)小型内燃機船 (2)蒸気レシプロ船およびタービン船 (3)航洋ディーゼル船 (4)戦時標準船のポンプおよび補機	
3.2.6.4	甲板機械および操舵機	142
3.2.6.5	生産状況の変遷	143
3.2.7	電気装置	144

第3章	船体艤装	145
3.3.1	総論	145
3.3.1.1	建造船舶の種別・性能等	145
3.3.1.2	船体艤装に関連する技術の進歩	146
3.3.1.3	船舶建造に関する法令・規則の改正	146
3.3.1.4	主機関その他機関艤装による影響	146
3.3.2	繫船設備	146
	(1)錨鎖 (2)錨 (3)索 (4)繫船金具	
3.3.3	載貨設備	148
	(1)揚貨設備 (2)倉口閉鎖装置 (3)船倉	
3.3.4	救命設備	149
	(1)端艇その他救命器具の備付数量 (2)救命艇その他の救命器具の仕様及び附属品 (3)その他 (4)手動プロペラ附救命艇	
3.3.5	消防設備	150
	(1)消火器 (2)近海以上の航行区域の旅客船の火災警報装置及び貨物倉の鎮火性ガス消火装置 (3)貨物船の貨物倉の火災警報装置と消火装置 (4)その他	
3.3.6	航海設備	151
3.3.6.1	信号器具	151
	(1)船灯 (2)汽笛, エアホーン及びモーター・サイレン	
3.3.6.2	航海計器及び器具	151
	(1)磁気羅針儀 (2)転輪羅針儀 (3)測程儀 (4)ケルビン式測深儀 (5)音響測深儀 (6)電気テレグラフ (7)電気式回転指示器及び舵角指示器 (8)クリヤービュー・スクリーン (9)無線方位測定機	
3.3.6.3	操舵装置	153
3.3.7	通信設備	154
3.3.7.1	船内通信	154
	(1)伝声管 (2)高声電話 (3)キャビン・テレフォン (4)船内放送装置 (5)その他	
3.3.7.2	無線電信, 無線電話	154
	(1)無線電信送信装置 (2)受信装置 (3)電源設備 (4)無線方位測定機, 警急自動受信機, 救命艇用無線電信設備 (5)公衆無線電話設備	
3.3.8	居住・衛生設備	156
3.3.8.1	貨客船	156
	(1)旅客室関係 (2)船員室関係 (3)診療設備及び病室等 (4)通風・暖房設備 (5)サニタリー設備 (6)厨房設備 (7)食糧庫設備 (8)洗濯設備	
3.3.8.2	貨物船	163
	(1)居住区配置等 (2)居室の造作及び内部	

設備 (3)厨房設備	164
3.3.9 塗料	165
(1)錆止塗料 (2)外舷塗料 (3)船底塗料 (4)特殊用途塗料	165
第4章 造船工作法	165
3.4.1 総論	165
3.4.1.1 建造工法の進歩	166
3.4.1.2 溶接の導入	166
3.4.1.3 戦時標準船への移行	167
3.4.1.4 改E型船の建造工法	167
3.4.2 船殻工作法	168
3.4.2.1 建造工程の変遷	168
3.4.2.2 鋸構造工作法	169
3.4.2.3 溶接構造工作法	170
3.4.2.4 材料管理等	170
3.4.3 艤装工作法	170
3.4.3.1 艤装工作法の変遷	170
3.4.3.2 デッキカパリング, 木甲板	171
3.4.3.3 塗装, ジンクプレート	171
3.4.4 進水および海上試運転	171

3.4.4.1 進水	171
(1)ヘット進水工作法 (2)特異な進水例 (3)大型船の進水	
3.4.4.2 海上試運転	172
(1)速力試験 (2)通増速力試験 (3)燃料消費量計測試験 (4)後進試験 (5)航統試験 (6)其他	
3.4.5 修繕工事および改造	174
3.4.5.1 一般修繕工事	174
3.4.5.2 改造工事	175
第5章 工場設備	175
3.5.1 工場配置	175
3.5.1.1 工場配置および設備	175
(1)鶴見造船所 (2)浦賀船渠 (3)川崎造船所 (4)播磨造船所 (5)三井造船所 (6)大阪鉄工所因島工場 (7)三菱造船長崎造船所 (8)川南工業香焼島造船所	
3.5.1.2 改E型造船工場の建設	180
3.5.2 船殻関係工場	180
3.5.3 艤装関係工場	182
3.5.4 修繕設備	183

第4編 教育機関, 研究機関および各種団体等

第1章 教育機関 (海軍関係を除く)	187	4.1.6 商船学校および水産学校等	194
4.1.1 概説	187	4.1.6.1 高等商船学校	194
4.1.2 大学	187	4.1.6.2 商船学校	194
4.1.2.1 総説	187	4.1.6.3 水産学校	194
4.1.2.2 東京帝国大学工学部船舶工学科	188	第2章 研究機関	195
4.1.2.3 九州帝国大学工学部造船学科	189	4.2.1 概説	195
4.1.2.4 大阪帝国大学工学部造船学科	190	4.2.2 船舶試験所	196
4.1.3 高等工業学校 (後の工業専門学校)	191	(1)試験水槽設置までの経緯 (2)完成当時の主要施設 (3)施設の大拡充 (4)依頼業務と研究業務 (5)試験水槽以外	
4.1.3.1 総説	191	4.2.3 水産試験場	198
4.1.3.2 大阪高等工業学校造船科	191	4.2.4 農林省水産講習所専攻科	198
4.1.3.3 横浜高等工業学校造船工学科 (横浜工業専門学校造船科)	191	4.2.5 各大学等の研究機関	198
4.1.3.4 大阪高等工業学校造船科 (堺), その他	192	(1)東京大学 (第一工学部船舶工学科) (2)東京大学 (第二工学部船舶工学科) (3)大阪大学 (工学部造船学科) (4)九州大学 (工学部造船学科) (5)横浜国立大学 (工学部造船学科)	
4.1.4 工業学校	192	4.2.6 造船所等の研究機関	199
4.1.4.1 総説	192	(1)三菱関係 (2)その他の造船所	
4.1.4.2 工業学校の造船科	192	4.2.7 主な研究委員会	200
4.1.4.3 工学院造船学科	192		
4.1.5 造船会社の技術員養成機関	192		
4.1.5.1 技能者養成所の由来	192		
4.1.5.2 各造船所の養成施設の沿革	193		

目	次
第3章 学会	200
4.3.1 造船協会	200
4.3.2 九州造船会	202
4.3.3 造船協会阪神倶楽部 (関西造船協会)	203
4.3.4 その他の学会	203
4.3.4.1 日本工学会	203
4.3.4.2 日本機械学会	204
4.3.4.3 熔接協会	204
4.3.4.4 日本海洋学会	204
第4章 造船海運関係団体等	205
4.4.1 概説	205
4.4.2 帝国海事協会及びその他の船級協会	205
4.4.2.1 帝国海事協会	205
4.4.2.2 その他の船級協会	206
(1)ロイド船級協会 (Lloyd Register of Shipping)	
(2)BC協会 (British Corporation for the Survey and Registry of Shipping)	
4.4.3 日本海事振興会	206
4.4.4 業界団体	207
(1)造船联合会 (2)日本木造船組合联合会	
(3)日本船用発動機協会 (4)日本内燃機工業組合联合会 (5)日本船用鑄工業組合 (6)日本船具商業組合联合会 (7)日本船用品協会 (8)日本船主協会 (9)漁船協会	
4.4.5 戦時の統制団体等	208
(1)造船統制会 (2)産業設備営団 (3)船舶運営会 (4)終戦後における船舶運営会	
4.4.6 その他の団体	212
(1)船舶改善協会 (2)近藤記念海事財団 (3)義勇財団海防義会 (4)対米船舶提供記念財団	
4.4.7 海事新聞および雑誌	213

第5編 海運, 港湾, 航路標識等

第1章 海運	215
5.1.1 概説	215
5.1.2 昭和初期の不況時代 (昭和5, 6年まで)	216
5.1.3 飛躍の準備時代—船質改善準備時代 (昭和7年~10年)	217
5.1.4 わが国海運の黄金時代から自主統制時代 (昭和10年~15年)	219
5.1.5 海運の国家管理から潰滅へ (昭和15年~20年)	220
第2章 港湾	221
5.2.1 昭和以前の港湾行政	221
5.2.2 昭和前期の港湾整備状況	221
5.2.3 昭和10年代の港湾の状況	222
(1)国際航路の要衝に当るものとして (2)交通連絡の要点に当るもの (3)内外貿易の中心をなすもの (4)内外貿易の地方的中心をなすもの (5)工業港施設の発達したもの (6)石炭積出港 (7)その他特殊の港湾	
5.2.4 昭和10年代のわが国港湾の特徴	223
第3章 航路標識	223
5.3.1 電波標識の実用化と灯台建築技術の進歩	223
5.3.2 戦時における技術開発および業務	223
第4章 救難, 海難審判	224
5.4.1 日本水難救済会	224
5.4.2 海難救助事業	224
5.4.2.1 海難救助事業のはじまり	224
5.4.2.2 わが国における戦前戦後の海難救助事業 (サルヴェージ)	224
5.4.2.3 各サルヴェージ業者の概要	225
(1)三菱造船所海事工業部門 (2)山科海事工業所 (3)松田海事工業所 (4)東京サルヴェージ株式会社 (5)日本海事工業株式会社 (6)帝国海事工業株式会社 (7)帝国サルヴェージ株式会社 (8)日本サルヴェージ株式会社	
5.4.2.4 第二次世界大戦前後のサルヴェージ	225
5.4.3 海難審判	226
第5章 水路, 海象, 気象	226
5.5.1 水路	226
5.5.2 海象および気象	227
5.5.2.1 組織	227
5.5.2.2 観測船	228
5.5.2.3 観測船による海洋気象調査	228
5.5.2.4 観測船による海洋気象調査の成果	228

第2部 一般船舶

第1編 船舶

第1章 客船	231	1.1.3.4 四国・九州航路	255
1.1.1 遠洋航路客船	231	1.1.3.5 伊豆航路	255
1.1.1.1 北米航路	231	1.1.3.6 佐渡航路	256
(1)シアトル航路 (2)サンフランシスコ航路		1.1.3.7 隠岐航路	256
1.1.1.2 南米航路	236	1.1.4 平水航路客船	256
(1)南米西岸航路 (2)南米東岸航路		1.1.4.1 湾内	256
1.1.1.3 豪州航路	239	1.1.4.2 河川	257
1.1.1.4 欧州航路	239	1.1.4.3 湖水	257
(1)就航船の改善 (2)新田丸型船の建造		第2章 貨物船	257
1.1.1.5 アフリカ東岸航路	241	1.2.1 一般貨物船	257
1.1.2 近海航路客船	242	1.2.1.1 大型貨物船	257
1.1.2.1 南洋航路	242	(1)ディーゼル貨物船の出現 (2)ディーゼル貨物船の普及 (3)普通貨物船の建造 (4)高速貨物船の出現 (5)船舶の改善助成による建造船 (6)優秀貨物船の建造	
(1)内地・ジャバ航路 (2)内地・バンコック航路 (3)内地・パラオ航路		1.2.1.2 中小型貨物船	268
1.1.2.2 北支航路	243	(1)4,000総トン級船 (2)3,000総トン級船 (3)2,000総トン級船 (4)1,000総トン級船 (5)海上トラック	
(1)内地・天津航路 (2)天津・大連・青島航路 (3)大連・天津航路		1.2.1.3 平時標準船型の選定	273
1.1.2.3 上海航路	244	1.2.2 特殊貨物船	275
(1)長崎・上海航路 (2)神戸・長崎・上海航路 (3)横浜・上海および阪神・上海航路		1.2.2.1 油送船	275
1.1.2.4 大連航路	244	(1)航洋型油送船の建造情況 (2)油送船の構造方式 (3)戦時標準型油送船 (4)小型油送船	
(1)内地・大連航路 (2)大連・支那・内地航路		1.2.2.2 鉦石船	278
1.1.2.5 南支航路	247	(1)鉄鉦石運搬船 (2)平時標準鉦石船 (3)第一次戦時標準鉦石船(1K型)	
1.1.2.6 台湾航路	248	1.2.2.3 撒積貨物船	278
(1)神戸・基隆航路 (2)横浜・高雄航路		(1)石炭運搬船 (2)穀物運搬船	
1.1.2.7 北鮮航路	251	1.2.2.4 セメント運搬船	279
(1)阪神・北鮮航路 (2)新潟・北鮮航路 (3)伏木・北鮮航路 (4)内地・朝鮮航路		1.2.2.5 木材運搬船	279
1.1.2.8 沖縄および奄美大島航路	252	1.2.2.6 鋼材運搬船	281
(1)沖縄航路 (2)奄美大島航路		1.2.2.7 重量物運搬船	281
1.1.2.9 北海道および樺太航路	252	1.2.2.8 冷蔵船	281
(1)樺太航路 (2)北海道航路		(1)冷蔵運搬船 (2)冷凍・冷蔵運搬船	
1.1.3 沿海航路客船	252	第3章 漁船以外の特殊船	281
1.1.3.1 瀬戸内海航路	252	1.3.1 渡船	281
(1)山陽航路 (2)大阪・別府航路		1.3.1.1 関釜連絡船(下関・釜山)	281
1.1.3.2 紀州航路	254	1.3.1.2 稚泊連絡船(稚内・大泊)	282
1.1.3.3 徳島航路	255		

1.3.1.3 関門連絡船(下関・門司)	282
1.3.1.4 宇高連絡船(宇野・高松)	282
1.3.1.5 青函連絡船(青森・函館)	282
1.3.2 しゅんせつ船	284
1.3.2.1 グラブ式しゅんせつ船	284
1.3.2.2 ディッパー式しゅんせつ船	284
1.3.2.3 バケット式しゅんせつ船	284
1.3.2.4 ポンプ式しゅんせつ船	285
1.3.2.5 ドラッグサクション式しゅんせつ船 ..	285
1.3.3 砕氷船	286
1.3.3.1 純砕氷船	286
1.3.3.2 耐氷構造付商船	286
1.3.3.3 砕氷装置付商船	286
1.3.4 ケーブル船	287
(1)電線槽 (2)電線布設引揚機械 (3)電線嚮導 設備 (4)張力計 (5)弛余測定装置 (6)電線積 込機	
1.3.5 海洋気象観測船	288
1.3.6 練習船	288
1.3.6.1 航海練習船(日本丸および海王丸) ..	288
1.3.6.2 水産講習所練習船(白鷹丸)	289
1.3.7 引船	289
1.3.8 海難救助船	290
1.3.8.1 海難救助船	290
1.3.8.2 救命機艇	290
1.3.9 浅喫水船	291

1.3.9.1 河川用浅喫水船	291
1.3.9.2 湖用水用浅喫水船	291
1.3.10 特殊貨物船(陸軍用)	292
第4章 木船	292
1.4.1 第一次大戦後の木船	292
1.4.2 昭和初期の木船	294
第5章 戦時の鋼船	295
1.5.1 続行船	295
1.5.2 戦時標準船	295
1.5.2.1 昭和17年度計画	296
1.5.2.2 昭和18年度計画	296
(1)改5線表 (2)改6線表 (3)改7線表	
1.5.2.3 昭和19年度以降の計画	301
(1)改8線表 (2)改9線表 (3)改10線表 (4)改11線表 (5)改12線表	
1.5.2.4 小型鋼船	304
第6章 戦時の木船その他	304
1.6.1 木船	304
1.6.1.1 計画造船	304
1.6.1.2 舢艫	306
1.6.1.3 合板船	306
1.6.1.4 引船	306
1.6.2 木鉄船	306
1.6.3 コンクリート船	307

第2編 船 政

第1章 管船制度	309
2.1.1 中央機関	309
2.1.2 地方機関	309
2.1.3 検査に関する代行機関	309
2.1.3.1 帝国海事協会	309
2.1.3.2 ロイド船級協会日本委員会	310
2.1.3.3 日本船用品協会	310
2.1.4 諮問機関	310
2.1.4.1 臨時海運調査会	310
2.1.4.2 海事審議会	310
2.1.4.3 船舶管理委員会	310
2.1.4.4 鋼船構造規程協議会	311
第2章 造船の振興施設	311
2.2.1 船舶改善助成	311

2.2.1.1 船舶改善助成施設実施の経緯	311
2.2.1.2 第一次船舶改善助成施設	311
2.2.1.3 第二次船舶改善助成施設	312
2.2.1.4 第三次船舶改善助成施設	313
2.2.2 優秀船舶建造助成	314
2.2.3 大型優秀船建造助成施設	316
2.2.4 船舶建造および修繕用物品の関税免 除	316
2.2.5 内地製鋼材の奨励金交付	317
2.2.6 造船融資に関する助成	317
2.2.7 船舶輸入許可規則の制定	318
2.2.8 船舶輸入関税施設	319
第3章 船舶関係法規の制定	319
2.3.1 船舶の安全に関する法規	319

2.3.1.1	船舶安全法	319
2.3.1.2	船舶安全法施行規則	320
2.3.1.3	船舶安全法施行規則を外国船舶に準用の件	331
2.3.1.4	鋼船構造規程	332
2.3.1.5	木船構造規程	335
2.3.1.6	船舶機関規程	336
2.3.1.7	船舶設備規程	336
2.3.1.8	船舶満載吃水線規程	340
2.3.1.9	船舶区画規程	342
2.3.1.10	漁船特殊規則および漁船特殊規程	343
2.3.1.11	危険物船舶運送及貯蔵規則	345
2.3.1.12	国際条約証書	345
2.3.2	船舶の積量測度に関する法規	346
2.3.2.1	大正時代末期における法規	346
2.3.2.2	その後の改正	346
2.3.2.3	船舶の積量の国際的互認	347
2.3.2.4	運河トン数	347
2.3.3	船用品に関する法規	348
2.3.3.1	船用品の取締に関する規則	348
2.3.3.2	船用品の検査試験に関する規則	348
2.3.4	造船に関する法規	349
2.3.4.1	造船事業法の制定	349
2.3.4.2	造船事業法の内容	349
2.3.5	船用品の規格	351
2.3.5.1	造船用鋼材	351
2.3.5.2	その他の船用品	352
2.3.6	度量衡および規格の統一	353
2.3.6.1	度量衡の統一	353
2.3.6.2	規格の統一	355
第4章	内地以外における船政	356
2.4.1	台湾	356
2.4.1.1	管船制度	356
2.4.1.2	海事法規	356
2.4.1.3	補助航路施設	357
2.4.1.4	造船業	357
2.4.2	朝鮮	357
2.4.2.1	管船制度	357
2.4.2.2	海事法規	357
2.4.2.3	海運保護奨励施設	357
2.4.2.4	造船保護政策	358
2.4.3	関東州	358
2.4.3.1	管船制度	358

2.4.3.2	海事法規	358
2.4.3.3	命令航路	359
2.4.4	樺太	359
2.4.5	南洋委任統治区域	359
2.4.6	占領地	359
第5章	船舶関係の国際会議	360
2.5.1	海上における人命の安全のための国際会議	360
2.5.1.1	国際会議の由来および経過	360
2.5.1.2	条約の内容	360
2.5.1.3	衝突予防規則の改正	363
2.5.2	国際満載喫水線会議	363
2.5.2.1	国際会議の由来および状況	363
2.5.2.2	条約の内容	363
第6章	戦時の船政	365
2.6.1	海事行政機構	365
2.6.1.1	支那事変と管船局機構の整備拡充	365
2.6.1.2	海運国家管理と戦時行政機構の整備	365
2.6.1.3	運輸通信省の設置と海事行政機構の根本的再編成	366
2.6.1.4	造船行政の海軍への移管	366
2.6.2	造船行政の推移	366
2.6.2.1	造船統制の強化	366
2.6.2.2	甲造船行政の海軍大臣への移管	367
2.6.2.3	木造船業・船用機関・艤装品製造業等の整備	369
2.6.3	造船の国家管理	369
2.6.3.1	海運の国家管理の仕組	369
2.6.3.2	造船の国家管理の仕組	370
2.6.3.3	建造の促進	371
2.6.3.4	木船の計画造船	371
2.6.4	造船融資に関する助成	372
2.6.4.1	船舶建造融資補給及損失補償法の制定	372
2.6.4.2	造船国家管理の実施に伴う法律改正	372
2.6.4.3	造船融資助成施設の実施状況	372
2.6.5	船舶検査等に関する戦時特例措置	372
2.6.5.1	船舶検査に関する戦時特例措置	372
2.6.5.2	乾舷の減少措置	373
2.6.5.3	船級事業に関する戦時特例措置	374
2.6.6	船舶修繕の国家管理	375
2.6.6.1	海運統制令による管理	375
2.6.6.2	戦時海運管理令による管理	376

第3部 漁船

第1編 漁船の動向

第1章 漁業と漁船	381	1.4.2 船舶安全法の漁船関係	385
1.1.1 漁業の推移	381	1.4.3 漁業経営費低減補助	386
第2章 漁船の動力化	382	1.4.4 漁業用無線普及及び補助	387
第3章 漁船の鋼船化	384	第5章 漁船の研究と諸団体	387
第4章 漁船の行政と助成	385	第6章 漁船保険	388
1.4.1 遠洋漁業奨励法	385	第7章 戦時中の漁船建造	389

第2編 漁船の技術的發展

第1章 各種漁船	393	2.1.7.4 魚糧母船	420
2.1.1 カツオ・マグロ漁船	393	2.1.7.5 マグロ母船	420
2.1.2 トロール漁船	398	2.1.7.6 冷凍カレイ母船	420
2.1.3 底曳網漁船	403	2.1.7.7 タラ母船	421
2.1.4 旋網漁船	408	2.1.8 小型漁船	421
2.1.5 捕鯨船	409	第2章 漁船機関と冷凍装置	422
2.1.6 漁業指導船・練習船・取締船	414	2.2.1 ディーゼル機関	422
2.1.6.1 漁業指導船	414	2.2.2 焼玉機関	424
2.1.6.2 漁業練習船	415	2.2.3 電気着火式機関とガス発生装置	424
2.1.6.3 漁業取締船	417	2.2.4 冷凍装置	425
2.1.7 各種母船	418	第3章 漁船の電子機器	425
2.1.7.1 カニ母船	418	2.3.1 無線設備	425
2.1.7.2 サケ・マス母船	418	2.3.2 方向探知器	426
2.1.7.3 捕鯨母船	419	2.3.3 音響測深機	426

第4部 艦艇

第1編 明治大正時代の艦艇建造技術の概要

第1章 建造計画の概要	429	1.1.2.4 明治25年の建艦計画	430
1.1.1 概要	429	1.1.3 日清戦役から日露戦役開戦頃までの計画	430
1.1.2 日清戦役前の建艦計画	429	1.1.3.1 第一期第二期海軍拡張計画	430
1.1.2.1 第一期海軍軍備拡張計画	429	1.1.3.2 第三期海軍拡張計画	430
1.1.2.2 第二期海軍軍備拡張計画	429	1.1.3.3 軍艦の購入及び駆逐艦、水雷艇の建造	430
1.1.2.3 明治23年請議の計画	429		

磐手 (5)春日, 日進 (6)筑波, 生駒
(7)伊吹, 鞍馬

1.1.4 大艦の国内建造とその建造計画..... 431

1.1.4.1 概要..... 431

1.1.4.2 八八艦隊整備方針の決定..... 431

1.1.4.3 日露戦役直後の艦艇整備計画 (明治40年) 431

1.1.5 超弩級艦の建造..... 431

1.1.5.1 概要..... 431

1.1.5.2 八八艦隊計画主力艦の建造 432

1.1.5.3 八八艦隊完成予算(大正9年8月成立) 432

1.1.6 巡洋艦, 駆逐艦, 潜水艦等の建造 ... 432

1.1.6.1 新充実計画による補助艦艇整備計画 (明治43年) 432

1.1.6.2 第一次世界大戦に関連する駆逐艦の建造 433

1.1.6.3 八八艦隊整備関係の補助艦艇建造計画 433
(1)大正4年建造計画 (2)大正5年度軍備補充費による建造計画 (3)八四艦隊完成計画による補助艦艇建造計画 (4)八六艦隊完成計画による補助艦艇建造計画 (5)八八艦隊完成計画による補助艦艇建造計画

1.2.3.2 巡洋艦..... 437
(3)筑摩, 平戸, 矢矧 (4)天龍, 龍田 (5)球磨型 (球磨, 多摩, 北上, 大井, 木曾) (6)夕張 (7)古鷹型 (古鷹, 加古, 青葉, 衣笠)

1.2.4 駆逐艦..... 438

1.2.5 潜水艦..... 439

1.2.5.1 概要..... 439

1.2.5.2 ガソリン単殻潜水艇..... 440

1.2.5.3 シュナイダ型, ファイアット型 440

1.2.5.4 L型..... 440

1.2.5.5 海中型..... 442

1.2.5.6 海大型..... 442

1.2.5.7 機雷潜, 巡潜 442

1.2.6 その他の艦艇..... 443

1.2.6.1 航空母艦 443

1.2.6.2 特務艦..... 443
(1)給油艦 (2)給炭艦 (3)給糧艦 (4)砕氷艦

第2章 艦艇 434

1.2.1 概要 434

1.2.2 戦艦及び巡洋戦艦 434

1.2.2.1 戦艦..... 434
(1)富士, 八島 (2)敷島, 朝日, 初瀬, 三笠 (3)鹿島, 香取 (4)薩摩, 安藝 (5)河内, 攝津 (6)扶桑, 山城, 伊勢, 日向 (7)長門, 陸奥 (8)加賀, 土佐 (9)紀伊, 尾張

1.2.2.2 巡洋戦艦 436
(1)金剛, 比叡, 榛名, 霧島 (2)天城, 赤城, 高雄, 愛宕

1.2.3 巡洋艦..... 436

1.2.3.1 装甲巡洋艦 436
(1)浅間, 常磐 (2)八雲 (3)吾妻 (4)出雲,

第3章 造機技術 443

1.3.1 ボイラ..... 443

1.3.2 タービン主機..... 444

1.3.3 内火機械 444

1.3.4 電気推進 445

1.3.5 発電機..... 445

1.3.6 造水装置 445

1.3.7 機械室通風装置..... 445

1.3.8 送風機, 給水ポンプの回転化 446

1.3.9 舵取装置, 揚錨装置 446

1.3.10 冷却機, 製氷機..... 446

1.3.11 水圧ポンプ 446

1.3.12 空気圧縮機 447

第2編 支那事変までの海軍艦艇の造修

第1章 建造計画 449

2.1.1 建造計画の概要..... 449

2.1.2 ワシントン海軍軍備制限条約とその影響 450

2.1.2.1 ワシントン海軍軍備制限条約 450

2.1.2.2 ワシントン条約の概要..... 450

(2)基準排水量に関する定義 (3)主力艦の保有に関する規定 (4)主力艦の近代化に関する規定 (5)航空母艦に関する規定 (6)主力艦, 航空母艦以外の艦船に関する規定

2.1.2.3 ワシントン条約の影響..... 451

2.1.3 1930年海軍条約 (通称ロンドン海軍

目	次
条約)	452
2.1.3.1 概要	452
2.1.3.2 条約規定の概要	452
(1)主力艦に関する規定 (2)航空母艦に関する規定 (3)補助艦に関する規定	
2.1.3.3 ロンドン条約の影響	453
2.1.4 軍縮条約の解消	454
2.1.5 ワシントン条約直後から大正年代の諸計画	454
2.1.5.1 大正12年度新補充計画	454
2.1.5.2 大正14年10月26日補助艦艇補充の請議	454
2.1.6 昭和2年度艦艇補充計画	454
2.1.7 昭和3年～4年に按画した海軍主要艦艇補充整備計画	455
2.1.8 昭和6年度補助艦艇補充計画(後に第一次補充計画, 略称①計画)	456
2.1.9 昭和8年度補助艦艇補充建造計画	456
2.1.10 昭和9年度艦艇建造補充計画(後に第二次補充計画略称②計画)	456
第2章 艦艇	457
2.2.1 概要	457
2.2.1.1 艦艇造修の概要	457
2.2.1.2 艦艇計画方針の変遷について	458
2.2.2 戦艦の改装	459
2.2.2.1 概説	459
(1)第1次改装工事の主要項目 (2)第2次改装工事の主要項目	
2.2.2.2 金剛型巡洋戦艦の改装	461
2.2.2.3 扶桑型戦艦の改装	462
2.2.2.4 伊勢型戦艦の改装	463
2.2.2.5 長門型戦艦の改装	463
2.2.3 巡洋艦	464
2.2.3.1 古鷹型(古鷹・加古・青葉・衣笠)	464
2.2.3.2 妙高型(妙高・那智・足柄・羽黒)	466
2.2.3.3 高雄型(高雄・愛宕・摩耶・鳥海)	467
2.2.3.4 最上型(最上・三隈・鈴谷・熊野)	468
2.2.3.5 利根型(利根・筑摩)	471
2.2.4 航空母艦	471
2.2.4.1 概説	471
2.2.4.2 鳳翔	472
2.2.4.3 赤城	473
2.2.4.4 加賀	478
2.2.4.5 龍驤	479
2.2.4.6 蒼龍	480
2.2.4.7 飛龍	480
2.2.5 駆逐艦	481
2.2.5.1 吹雪型(特型)	481
2.2.5.2 初春型	485
2.2.5.3 白露型	485
2.2.5.4 朝潮型	486
2.2.6 潜水艦	486
2.2.6.1 概要	486
2.2.6.2 海大型	487
2.2.6.3 巡潜型	487
2.2.6.4 海中6型	488
2.2.7 その他の艦艇	490
2.2.7.1 潜水母艦	490
(1)大鯨 (2)剣埼, 高崎	
2.2.7.2 敷設艦	491
(1)殿島 (2)白鷹 (3)八重山 (4)沖島	
2.2.7.3 砲艦	494
(1)熱海, 二見 (2)小鷹	
2.2.7.4 水雷艇	494
(1)千鳥型 (2)鴻型	
2.2.7.5 掃海艇	497
(1)第1号型 (2)第13号型および第17号型	
2.2.7.6 駆潜艇	498
(1)第1号型 (2)第3号および第4号型 (3)第51号型	
2.2.7.7 敷設艇	499
(1)燕型(捕獲網艇) (2)夏島型	
2.2.8 外国向けの艦艇	500
2.2.8.1 中華民国(巡洋艦寧海, 平海)	500
2.2.8.2 満洲国(砲艦等)	501
2.2.8.3 タイ国(砲艦, 海防艦, 潜水艦等)	502
(1)砲艦 (2)海防艦 (3)潜水艦 (4)哨戒艇 (5)運送艦 (6)給油艦	
第3章 造修実績	504

第3編 第二次世界大戦終結まで

第1章 建造計画	513
3.1.1 建造計画の概要	513
3.1.1.1 軍備制限無条約時代への準備	513
3.1.1.2 大東亜戦争開戦まで	513
3.1.1.3 大東亜戦争中の諸計画	513
3.1.1.4 船舶建造助成策と海軍特設艦船準備施設の推進	514
3.1.2 昭和12年度艦船補充計画（通称③計画）	514
3.1.3 臨時機関調査委員会の設置と対策緊急工事	514
3.1.4 昭和13年度計画	514
3.1.5 昭和14年度艦艇充実計画（通称④計画）	515
3.1.5.1 概要	515
3.1.5.2 艦船建造の方針	515
3.1.5.3 ④計画の追加計画	515
3.1.6 昭和17年度艦船建造補充計画（⑤計画，改⑤計画，⑥計画）	515
3.1.7 大東亜戦争開戦前の建造計画（㉔，㉕，㉖計画）	516
3.1.7.1 戦備促進の諸方策	516
3.1.7.2 戦時艦船建造の諸計画	516
3.1.7.3 戦備促進及び戦時艦船建造と既定計画との関連	517
(1)戦備促進 (2)船舶徴用 (3)㉔計画 (4)㉕計画 (5)㉖計画	
3.1.8 戦時中の艦艇建造計画	518
3.1.8.1 改⑤計画（昭和17年6月30日）	518
3.1.8.2 既定計画の改訂	518
3.1.8.3 航空母艦緊急増勢計画（昭和17年6月30日）	518
3.1.8.4 改⑤計画の追加建造計画	519
(1)第一次追加計画（昭和17年10月21日）	
(2)第二次追加計画（昭和18年2月2日）	
3.1.8.5 昭和18年度戦時艦艇建造計画（㉗計画）	519
3.1.8.6 第3段戦備計画中の艦艇建造計画（昭和18年9月）	520
3.1.8.7 陸海軍協同戦備と昭和20年度前期艦艇建造計画	520

3.1.9 既成艦船の改造計画及び造修	521
(1)開戦前の諸計画 (2)昭和18年度の諸計画 (3)昭和19年度の諸計画 (4)昭和20年度の諸計画	
第2章 水上艦艇	522
3.2.1 概要	522
3.2.2 戦艦	523
3.2.2.1 概要	523
3.2.2.2 比叡改装	524
3.2.2.3 大和，武蔵	525
(1)基本計画決定までの経過 (2)基本計画の問題点 (3)防御計画の概要 (4)復原性能と旋回性能 (5)抵抗推進 (6)構造上の特長 (7)艦装 (8)大和，武蔵の建造	
3.2.2.4 110号艦，111号艦	533
3.2.2.5 伊勢及び日向の大改装	534
(1)大改装の経緯 (2)改造工事の概要 (3)工事の実施について	
3.2.2.6 その他	535
3.2.3 航空母艦	536
3.2.3.1 概要	536
3.2.3.2 翔鶴型（翔鶴，瑞鶴）	536
3.2.3.3 大鳳及び大鳳改型	537
(1)大鳳 (2)大鳳改型	
3.2.3.4 雲龍型（雲龍，天城，葛城等）	539
3.2.3.5 飛鷹（出雲丸）及び隼鷹（樫原丸）	539
3.2.3.6 瑞鳳，祥鳳，龍鳳	540
(1)瑞鳳（高崎），祥鳳（剣埼） (2)龍鳳（大鯨）	
3.2.3.7 千歳，千代田	541
3.2.3.8 信濃	541
(1)戦艦より空母へ変更の経緯 (2)空母信濃の基本計画について (3)信濃の沈没について	
3.2.3.9 伊吹	546
3.2.3.10 大鷹，雲鷹，沖鷹，神鷹，海鷹	546
(1)大鷹（春日丸），雲鷹（八幡丸），沖鷹（新田丸） (2)神鷹（シャルンホルスト） (3)海鷹（あるぜんちな丸）	
3.2.4 巡洋艦	549
3.2.4.1 概要	549
3.2.4.2 阿賀野型（阿賀野・能代・矢矧・酒匂）	549
3.2.4.3 大淀	550

3.2.4.4	伊吹	551	(砲塔運搬艦)		
3.2.4.5	重巡の改装	551	3.2.8.2	工作艦 明石	577
	(1)古鷹型の改装 (2)青葉型の改装 (3)妙高型の改装 (4)高雄型の改装		3.2.8.3	測量艦 筑紫	578
3.2.4.6	最上型の改装	552	3.2.8.4	標的艦	578
3.2.4.7	5,500T型の改装	553		(1)攝津 (2)矢風 (3)波勝 (4)大濱型(大濱, 大指)	
	(1)大井・北上(重雷装艦) (2)五十鈴(防空巡洋艦)等		3.2.9	特設艦船	581
3.2.4.8	香取型練習巡洋艦(香取, 鹿島, 香椎)	553	3.2.9.1	概要	581
3.2.5	駆逐艦	555	3.2.9.2	兵装・艦装	581
3.2.5.1	概要	555		(1)主要兵装 (2)艦装工事	
3.2.5.2	陽炎型(甲型)	555	3.2.9.3	主な特設艦船の兵装艦装状況	582
3.2.5.3	夕雲型(甲型)	556		(1)特設巡洋艦 (2)特設水上機母艦 (3)特設砲艦 (4)特設工作艦 (5)特設病院船 (6)特設運送船(給油船)	
3.2.5.4	秋月型(乙型)	556	3.2.9.4	開戦までの入籍状況	583
3.2.5.5	島風	558	3.2.9.5	開戦後の経過概要	584
3.2.5.6	松型(丁型)	558	3.2.10	特務艇, 高速艇等	594
3.2.6	水上機母艦, 敷設艦	559	3.2.10.1	特務艇	594
3.2.6.1	水上機母艦	559		(1)敷設特務艇(第1号~第4号) (2)掃海特務艇(第1号~第22号) (3)駆潜特務艇(第1号型) (4)哨戒特務艇 (5)海防艇(甲型, 乙型) (6)電纜敷設艇 初島型	
	(1)概要 (2)能登呂 (3)神威 (4)千歳型(千歳, 千代田) (5)瑞穂 (6)日進 (7)秋津洲		3.2.10.2	高速艇	596
3.2.6.2	敷設艦	563		(1)魚雷艇(第1号型, 甲型, 乙型, 隼艇等) (2)魚雷追跡艇 (3)震洋(四艇)	
	(1)津軽 (2)初鷹型(初鷹, 蒼鷹, 若鷹) (3)箕面等		3.2.10.3	上陸用艇等	599
3.2.7	小艦艇	563		(1)特型運貨船(大発等) (2)砲艇 (3)特型内火艇	
3.2.7.1	砲艦	563	3.2.11	雑役船等	602
	(1)橋立型(橋立, 宇治) (2)伏見型(伏見, 隅田)		3.2.11.1	曳船, 救難船, 交通船等	602
3.2.7.2	海防艦	564		(1)曳船 (2)救難船[(a)立神型, (b)笠島型, (c)三浦型] (3)交通船 (4)その他(各種運搬船等)[(a)150t 魚雷運搬船, (b)100t 飛行機運搬船, (c)500t 積重油運搬船]	
	(1)占守型(占守, 國後, 八丈, 石垣) (2)甲型[(a)擲捉型, (b)御蔵型, (c)鵜來型] (3)丙型 (4)丁型		3.2.11.2	飛行機救難船	602
3.2.7.3	輸送艦	566	3.2.11.3	曳船(駆潜艇型および敷設艇型)	603
	(1)概要 (2)一等輸送艦(特務艦特一特特) (3)二等輸送艦(SB艇)I			(1)曳船(駆潜艇型) (2)曳船(敷設艇型)	
3.2.7.4	掃海艇, 敷設艇及び駆潜艇	568	3.2.11.4	動力船(住吉丸型)	603
	(1)掃海艇[(a)第7号型, (b)第19号型, (c)第101号型] (2)敷設艇[(a)測天型, (b)平島型, (c)神島型] (3)駆潜艇[(a)第4号型, (b)第13号型]		3.2.11.5	艦砲標的船	603
3.2.8	特務艦	575		(1)第1種標的等 (2)大型標的 (3)高速標的	
3.2.8.1	運送艦	575	3.2.11.6	装載短艇, 内火艇	604
	(1)給油艦[(a)風早型(風早, 速吸), (b)針尾] (2)揮発油運搬艦[(a)足摺型(足摺, 塩屋), (b)洲崎型(洲崎, 高崎)] (3)給糧艦[(a)伊良湖, (b)杵崎型および野崎等] (4)運送艦 宗谷 (5)給兵艦 樺野		3.2.11.7	潜水作業艇	604
			3.2.11.8	その他	604
				(1)被曳航油槽船 (2)コンクリート製貨物船	

第3章 潜水艦	605
3.3.1 概要	605
3.3.2 建造経過	607
3.3.2.1 甲型(伊9潜型)	607
3.3.2.2 乙型(伊15潜型)	607
3.3.2.3 丙型(伊16潜型)	607
3.3.2.4 海大型(伊176潜型)	607
3.3.2.5 海中型(呂35潜型)	609
3.3.2.6 潜小型(呂100潜型)	609
3.3.2.7 潜特(伊400潜型)	610
3.3.2.8 潜補(伊351潜型)	611
3.3.2.9 丁型(伊361潜型)	611
3.3.2.10 潜輪小(波101潜型)	612
3.3.2.11 潜高(伊201潜型)	612

3.3.2.12 潜高小(波201潜型)	613
3.3.3 第二次独潜技術導入	614
3.3.4 特殊潜航艇等の建造	615
3.3.4.1 甲標的	615
3.3.4.2 仮称艦名71号艦	616
3.3.4.3 海龍	617
第4章 造修実績	618
3.4.1 昭和12年度海軍補充計画	618
3.4.2 昭和13年度追加計画	620
3.4.3 昭和14年度海軍軍備充実計画	620
3.4.4 改⑤計画以降	620
3.4.5 改装工事实績	627

第4編 艦艇建造技術の発達

第1章 造船技術

4.1.1 概要	629
4.1.2 抵抗, 推進, 旋回性能	630
4.1.2.1 概要	630
(1)曳航試験 (2)プロペラ単独試験 (3)船後試験或は自航試験 (4)キャビテーション試験	
4.1.2.2 計画艦の推進性能に関する研究	631
4.1.2.3 推進性能に関する基礎研究	632
(1)概要 (2)抵抗関係 (3)推進関係	
4.1.2.4 旋回性能に関する基礎研究	634
4.1.3 友鶴事故と復原性能	635
4.1.3.1 概要	635
4.1.3.2 友鶴建造の経緯と艦艇復原性能低下の背景	635
(1)友鶴の基本計画 (2)友鶴建造中の性能改善 (3)早蕨の遭難 (4)復原性能附与の方針	
4.1.3.3 友鶴転覆の顛末とその原因等	635
(1)友鶴の行動概要 (2)転覆当時の気象及び海象 (3)友鶴遭難の状況 (4)友鶴転覆後の状況 (5)友鶴転覆に対する査問委員会 (6)友鶴転覆の原因の考察	
4.1.3.4 復原性能の改善	637
(1)臨時艦艇性能調査委員会 (2)艦艇復原性能摘要表 (3)艦艇旋回力標準 (4)復原性能改善の方策 (5)復原性能改善工事の実施	

4.1.3.5 復原性能を確保する為の制度	640
(1)艦艇の重量処理 (2)審議委員及び審議公試制度 (3)艦船基本計画班の独立について	
4.1.3.6 復原性能に関する研究実験	640
(1)概要 (2)主要な研究成果	
4.1.4 構造・振動及び材料	641
4.1.4.1 造船実験部	641
(1)大型構造物試験機 (2)400 t 試験機 (3)1, 200m-t 屈曲試験機 (4)アムスラ型100 t 材料試験機 (5)疲労試験機 (6)その他の小型試験機等	
4.1.4.2 継手の強度及び有孔板の補強法	641
(1)リベット継手の研究 (2)継手等の疲労強度 (3)有孔板の補強	
4.1.4.3 船体の歪及び応力の測定	642
4.1.4.4 隔壁強度実験	642
4.1.4.5 耐圧船殻圧壊実験	643
4.1.4.6 船体振動	644
(1)振動計 (2)模型実験 (3)実艦計測	
4.1.4.7 船体用鋼材	644
4.1.4.8 塗料その他	645
(1)船底塗料に関する調査 (2)船底塗料の研究 (3)船底塗料の銅及び水銀代替品の研究 (4)不燃性防錆塗料 (5)特殊塗料 (6)その他の材料の研究	
4.1.5 電気溶接	646

4.1.5.1	電気溶接採用の初期の状況	646	置 (5)防毒施設 (6)烹炊室 (7)防水扉蓋 (8)操舵装置 (9) 応急舵取装置等
4.1.5.2	八重山の建造	646	
4.1.5.3	大鯨の建造	646	
4.1.5.4	一般艦艇建造への溶接使用範囲の拡大	647	
4.1.5.5	巡洋艦最上の艦尾部損傷及び第四艦隊 事故	647	
4.1.5.6	溶接使用の制限	647	
4.1.5.7	戦時の溶接による急速建造	648	
4.1.5.8	溶接棒	648	
4.1.5.9	自動溶接	648	
4.1.6	第四艦隊事故とその対策	649	
4.1.6.1	概要	649	
4.1.6.2	荒天の状況	650	
4.1.6.3	艦艇損傷の状況	651	
	(1)駆逐艦 (2)巡洋艦及びその他の軍艦 (3)その他		
4.1.6.4	船体強度の検討	651	
4.1.6.5	船体補強対策	652	
4.1.6.6	強度以外の対策について	652	
4.1.6.7	溶接艦の強度対策	653	
4.1.6.8	むすび	653	
4.1.7	防御	654	
4.1.7.1	対弾防御	654	
	(1)水中弾防御 (2)蜂巢甲鉄 (3)円筒甲鉄 (4)爆弾の貫徹力 (5)甲鉄対弾丸の実験値 の例		
4.1.7.2	水中爆発に対する防御	655	
	(1)沿革 (2)舷側防御法 (3)艦底防御法 (4)舷側防御の実例		
4.1.8	艤装及び応急	657	
4.1.8.1	応急注排水装置	657	
	(1)一般経過 (2)主力艦の応急注排水装置 の能力を定める被害想定及び装備方針 (3)注排水区画 (4)応急注排水の実施要領 (5)注排水装置の特殊設備 (6)応急注排水 装置の効果 (7)巡洋艦及び航空母艦の注 排水装置		
4.1.8.2	防水区画定期検査	659	
4.1.8.3	航空母艦泡沫消火装置	659	
	(1)装備の経過概要 (2)泡沫消火装置装備 要領		
4.1.8.4	潜水艦艤装について	659	
	(1)メインタンク注排水装置 (2)居住関係		
4.1.8.5	その他の艤装	660	
	(1)艦橋風除装置 (2)揚艇及び飛行機揚収 設備 (3)通風装置 (4)暖冷房及び冷凍装		
4.1.9	その他	661	
4.1.9.1	潜水艦自動懸吊装置	661	
4.1.9.2	潜水艦重油漏洩防止装置	661	
4.1.9.3	潜水艦電探被探知防止対策	661	
4.1.9.4	特型運貨筒	662	
4.1.9.5	曳航運貨筒	662	
4.1.9.6	運砲筒	662	
4.1.9.7	魚雷防御網	662	
第2章	造機関係	663	
4.2.1	一般	663	
4.2.1.1	タービン艦艇	663	
4.2.1.2	ディーゼル艦艇	664	
4.2.2	ボイラ	664	
4.2.3	タービン	666	
4.2.3.1	不銹鋼タービン翼及び艦本式推力軸受	666	
4.2.3.2	電気溶接製減速車室と溶接棒	667	
4.2.3.3	千鳥型水雷艇高圧高温タービン	668	
4.2.3.4	タービン・ノズル及び動翼効率試験及 びタービン翼、翼車動的振動試験	668	
4.2.3.5	臨機調問題	668	
4.2.3.6	40kg/cm ² 、400°Cタービン	669	
4.2.3.7	既成艦反動タービン動静翼の改造	669	
4.2.3.8	艦本式反動タービンと新計画方針	670	
4.2.3.9	減速歯車	670	
4.2.3.10	タービン主機発達の概要	671	
4.2.4	ディーゼル	675	
4.2.4.1	概要	675	
4.2.4.2	艦本式空気噴射複動ディーゼル	675	
4.2.4.3	艦本式無気噴射複動ディーゼル	680	
4.2.4.4	新戦艦用艦本式ディーゼル	680	
4.2.4.5	臨機調問題	680	
4.2.4.6	中小型ディーゼル	681	
4.2.5	補機	682	
4.2.5.1	機関室内補機	682	
4.2.5.2	機関室外補機	683	
	(1)舵取装置 (2)揚錨装置 (3)所掌につい て (4)砲塔用水圧ポンプ (5)冷却機、製 氷機		
4.2.5.3	発電機	683	
4.2.6	プロペラ	684	
4.2.6.1	タンク・テストと実艦テスト	684	
4.2.6.2	プロペラの設計と実績、鳴音防止	684	

4.2.6.3 代表艦艇プロペラ要目	685
4.2.7 その他	685
4.2.7.1 機関室操縦室の設置	685
4.2.7.2 機関室区画	685
4.2.7.3 蒸気管配備	685
4.2.7.4 機械室通風装置	687
4.2.7.5 防振ゴムの採用	687
4.2.7.6 航空母艦の煙突	687
4.2.7.7 水中充電装置	688
4.2.7.8 造機関係実験研究	688
4.2.7.9 戦時中の設計技術向上対策	688
4.2.8 艦種別機関	689
4.2.8.1 戦艦大和型	689
4.2.8.2 戦艦長門型改装	689
4.2.8.3 戦艦伊勢型, 扶桑型改装	690
4.2.8.4 戦艦金剛型改装	690
(1)第1回改装(昭和3~8年完成) (2)第2回改装(昭和9~15年)	
4.2.8.5 航空母艦	691
(1)龍驤 (2)蒼龍, 飛龍 (3)翔鶴, 瑞鶴	
(4)大鳳 (5)雲龍, 天城, 笠置, 生駒 (6)葛城, 阿蘇	
4.2.8.6 他艦種から改装の航空母艦	691
(1)信濃 (2)伊吹 (3)瑞鳳, 祥鳳, 龍鳳	
(4)千歳, 千代田 (5)大鷹, 雲鷹, 沖鷹, 飛鷹, 隼鷹, 神鷹, 海鷹	
4.2.8.7 航空母艦加賀改装	692
4.2.8.8 航空母艦赤城改装	692
4.2.8.9 巡洋艦	692
(1)妙高型, 高雄型 (2)最上型 (3)阿賀野型, 大淀 (4)練習巡洋艦香取型	
4.2.8.10 水上機母艦, 潜水母艦	693
(1)千歳型 (2)瑞穂, 日進, 秋津洲 (3)大鯨, 劍埼, 高崎	
4.2.8.11 敷設艦, 砲艦	694
4.2.8.12 駆逐艦, 水雷艇	694
(1)吹雪型 (2)初春型 (3)千鳥型, 鴻型	
(4)朝潮型 (5)陽炎型 (6)島風 (7)秋月型 (8)松型	
4.2.8.13 潜水艦	696
4.2.8.14 海防艦	696
(1)占守型, 樺提型(海防艦甲型) (2)御蔵型(海防艦甲型) (3)第1号型海防艦(海防艦丙型) (4)第2号型海防艦(海防艦丁型)	
4.2.8.15 輸送艦	697
4.2.8.16 掃海艇, 敷設艇	697

4.2.8.17 駆潜艇	697
4.2.8.18 特務艦	698
(1)工作艦 明石 (2)測量艦 筑紫 (3)運送艦 樺野 (4)給糧艦 伊良湖, 杵崎型, 野崎 (5)揮発油運搬艦 足摺型, 洲崎型 (6)給油艦 風早, 速吸, 針尾 (7)無線操縦標的艦 攝津 (8)標的艦 波勝, 大濱	
4.2.8.19 特務艇, 高速艇等	700
4.2.8.20 機関部重量内訳	700
第3章 造兵関係	700
4.3.1 砲煩関係	700
4.3.1.1 概要	700
4.3.1.2 大口径砲について	700
(1)大口径砲の砲塔 (2)主力艦の近代化に伴う砲煩兵器の改装 (3)砲塔甲鉄	
4.3.1.3 20cm砲及び15.5cm砲について	702
(1)20cm砲 (2)15.5cm砲	
4.3.1.4 15cm砲以下の中小口径砲について	704
4.3.1.5 高角砲について	704
(1)概要 (2)40口径8cm高角砲 (3)45口径10年式12cm高角砲 (4)八九式12.7cm連装高角砲 (5)九八式10cm連装高角砲及び九八式8cm連装高角砲 (6)一式12.7cm単装高角砲 (7)短20cm砲及び短12cm砲	
4.3.1.6 機銃について	705
(1)概要 (2)毘式40mm機銃 (3)五式40mm機銃 (4)九六式25mm機銃 (5)九三式13mm機銃 (6)九七式7.7mm機銃 (7)九二式7.7mm機銃	
4.3.1.7 射撃指揮装置について	705
4.3.1.8 砲身について	706
4.3.1.9 弾丸について	706
(1)徹甲弾 (2)その他の砲弾	
4.3.1.10 大口径砲の動力用水圧ポンプについて	708
4.3.2 水雷関係	708
4.3.2.1 魚雷	708
(1)概要 (2)昭和以前の魚雷 (3)昭和初期の魚雷 (4)大東亜戦争前の魚雷 (5)大東亜戦争中の魚雷	
4.3.2.2 爆薬	711
(1)昭和以前の爆薬 (2)大東亜戦争終結までの爆薬	
4.3.2.3 発射機および艀装	711
(1)概要 (2)駆逐艦 (3)巡洋艦 (4)潜水艦 (5)その他	
4.3.3 機雷, 爆雷, 掃海等	712

目	次
4.3.3.1 機雷……………	712
(1)概要 (2)機雷の種類と特徴 (3)敷設艦艇と艤装	
4.3.3.2 爆雷……………	713
(1)概要 (2)爆雷と投射機 (3)対潜艦艇と艤装	
4.3.3.3 掃海……………	713
(1)概要 (2)掃海具の種類と特徴 (3)単艦式掃海艤装 (4)防雷具	
4.3.3.4 防潜網……………	714
(1)概要 (2)網船と艤装	
4.3.4 一般電気関係……………	714
4.3.4.1 概要……………	714
4.3.4.2 発電総容量の増大……………	714
4.3.4.3 一次電源の交流化……………	714
4.3.4.4 配電方式……………	715
4.3.4.5 艦内通信と超多心線……………	715
4.3.4.6 探照灯……………	715
4.3.4.7 舷外電路……………	715
4.3.4.8 潜水艦用主蓄電池……………	715
4.3.5 電波関係……………	716
4.3.5.1 概要……………	716
4.3.5.2 昭和初年より昭和年15頃までの時代……………	716
4.3.5.3 昭和15年頃より大東亜戦争終結までの時代……………	716
4.3.6 水測関係……………	717
4.3.7 製鋼関係……………	718
第4章 艦艇造修技術……………	719
4.4.1 概要……………	719
4.4.2 建造方式の変遷……………	722
4.4.3 改装及び改造工事……………	722
4.4.4 工作法の進歩……………	724
(1)電気溶接の使用 (2)ガス切断 (3)甲鉄工事 (4)船殻構造のブロック建造 (5)艤装工事の早期着手 (6)実物大模型の作製 (7)可燃物の使用制限 (8)代用材料の研究と使用 (9)船体部制式の制定 (10)造船部材料統制方式の確立 (11)造船部工数統制方式の確立	
4.4.5 造船船渠を使う建造……………	726
4.4.6 部外工業の利用……………	727
4.4.7 統制工業……………	727
4.4.8 救難作業……………	727
4.4.8.1 水上艦艇の事故及び救難……………	727
4.4.8.2 潜水艦の海難、沈没事故及び救難……………	728
第5章 戦時造修の特殊事情……………	730
4.5.1 概要……………	730
4.5.2 生産促進の方策……………	731
4.5.3 急速建造法……………	731
4.5.4 戦訓と対策……………	732
4.5.5 損傷と修理……………	733

第5編 艦船造修の制度、施設及び規格

第1章 海軍艦政本部と技術研究所……………	735
5.1.1 海軍艦政本部……………	735
5.1.2 海軍技術研究所……………	736
第2章 海軍工作庁および民間造船所……………	738
5.2.1 概要……………	738
5.2.2 海軍工廠……………	739
5.2.2.1 概要……………	739
5.2.2.2 横須賀海軍工廠……………	740
5.2.2.3 呉海軍工廠……………	742
5.2.2.4 佐世保海軍工廠……………	745
5.2.2.5 舞鶴海軍工廠……………	745
5.2.2.6 広海軍工廠……………	747
5.2.3 工作部及び外地工作部……………	747
5.2.3.1 工作部……………	747
5.2.3.2 外地工作部……………	751
5.2.4 工作艦および特設工作艦……………	751
5.2.5 民間造船所……………	752
5.2.5.1 概要……………	752
5.2.5.2 三菱長崎造船所……………	752
5.2.5.3 川崎重工……………	754
5.2.5.4 三菱神戸造船所……………	755
5.2.5.5 浦賀船渠(現住友重機浦賀造船所)……………	755
5.2.5.6 藤永田造船所(現三井造船藤永田造船所)……………	756
5.2.5.7 三井玉造船所(旧三井物産玉工場)……………	756
5.2.5.8 石川島造船所(現石川島播磨重工東京第二工場)……………	757
5.2.5.9 三菱横浜造船所(旧横浜船渠)……………	757
5.2.5.10 播磨造船所(現石川島播磨重工相生造船所)……………	757

第3章 法規および基準	758
5.3.1 概要	758
5.3.2 造修に関する基本規則	758
5.3.2.1 艦船造修規則	758
5.3.2.2 兵器造修規則	758
5.3.3 標準化に関する規則	758
5.3.4 造船関係の規則および基準	759
5.3.5 造機関係の規則および基準	759
5.3.5.1 艦本機普報及び艦本機秘報	759
5.3.5.2 機関計画内規	759
5.3.6 造兵関係の規則および基準	759

5.3.7 工作庁関係の法規	759
5.3.7.1 工作庁施設設置に関する法規	759
5.3.7.2 海軍工務規則	760
5.3.7.3 海軍工具規則	760
5.3.7.4 原価計算	760
5.3.7.5 海軍購買名簿	761
第4章 技術教育	761
5.4.1 技術士官の養成	761
5.4.2 文官の養成	762
5.4.3 工員の養成	762
5.4.4 予備工作兵および予備特務士官制度	762

第6編 陸軍の船艇

第1章 陸軍の建造計画	763
6.1.1 概要	763
6.1.2 陸軍建造の船艇の種類	763
(1)小型船 (2)中型船 (3)大型船	
6.1.3 陸軍船舶の主務関係	763
第2章 陸軍の特殊船艇	763
6.2.1 小型船	763

(1)上陸用舟艇 (2)護衛用舟艇 (3)特攻舟艇	
(4)輸送艇 (5)連絡用舟艇	
6.2.2 中型船	766
(1)機動艇 (SS艇, ES船, SB艇) (2)水船 (3)砕氷船 (4)強力曳船 (5)潜航輸送艇	
6.2.3 大型船	767
(1)特殊船 (2)神州丸 (3)特殊起重機船	

第7編 艦艇関係の終戦処理

第1章 艦艇造修施設の処理	769
7.1.1 終戦による工事中止	769
7.1.2 施設の転用	769
7.1.3 残務処理機構の変遷	769

第2章 艦艇の処理	769
7.2.1 残存艦艇の処理	769
7.2.2 沈没及び大破艦艇の処理	772
7.2.3 未成艦艇の処理	772

第4部 付 録

1 主要艦艇建造年表	774
2 艦艇要目表	776
3 主要艦艇艦型図	798
付・収録艦艇名表	817
4 艦艇名表	818
事項索引	835
艦船名索引	842

表・図・写真 目 録

第1部 総 説

第1編 概 説

表
1 海外進出造船所……………7

第2編 造船会の推移

表
1 主要造船国別世界進水商船推移……………10
2 昭和6年乃至昭和20年の用途別鋼船竣工実績調……………11
3 昭和6年乃至昭和20年の造船所別鋼船竣工実績調……………12
4 鋼船竣工実績……………13
5 わが国における主機関別進水実績……………14
6 新造船速力別隻数表……………14
7 開戦時における商船建造状況……………14
8 戦時標準船建造実績……………15
9 民間造船所における艦艇建造実績……………17
10 木船建造実績……………17
11 木造第一次戦時標準船要目……………18
12 鋼船修繕実績……………18
13 船舶生産額および修繕料の推移……………18
14 日本造船業の推移……………35
15 建造量の推移……………36
16 昭和6年～昭和20年各社別生産高……………36
17 わが国船価の推移(重量トン取引値)……………39
18 主要造船工場設備概要……………41～46
19 昭和初期から終戦までの造船労働者数……………51
20 職工の残業時間……………52
21 職工の日給および平均月収……………53
22 職工の賞与……………53
23 主機関およびボイラの生産実績……………55
24 船用内燃機関生産実績……………56
25 1,000馬力以上のディーゼル機関生産実績(主要工場別)……………56
26 戦時中船用機関等の製造実績……………57
27 普通鋼圧延鋼材部門別消費実績推移表……………57
附表 大正13年～昭和20年(終戦まで)1,000GT以上進水船舶要目表……………19～34

三菱重工長崎造船所……………19
三菱重工神戸造船所……………20
三菱横浜船渠……………21
三菱重工広島造船所……………23
三井造船……………23
大阪鉄工所……………24
川崎重工……………26
石川島重工……………27
播磨造船……………27
浦賀船渠……………29
日本鋼管(浅野造船所, 鶴見製鉄造船)……………30
川南工業 香焼島造船所……………30
川南工業 浦崎造船所……………31
佐野安船渠……………32
名村造船所……………32
大阪造船所……………32
名古屋造船……………32
日本海船渠……………32
函館船渠……………33
藤永田造船……………33
浪速船渠……………33
笠戸船渠……………33
九州造船……………33
その他造船所……………34

図

1 三菱重工業収支損益推移表……………36
2 石川島収益推移表……………37
3 播磨造船収益推移表……………37
4 日本鋼管収益推移表……………37
5 浦賀船渠業績推移表……………38
6 昭和初期から終戦までの造船労働者数(鋼船造船所)……………51

第3編 造船技術の発展

表

1 昭和年代終戦迄の商船建造実績表……………59
2 船舶改善助成設実績表……………60
3 平時標準船型表……………61
4 第一次戦時標準船の要目……………61
5 戦時標準船速力比較表……………62

6	船舶速力比較表	65
7	図面の縮尺	70
8	鋼材単純化表	72
9	特許並に新案航	80
10	戦時標準乾燃室式丸ボイラ仕様	86
11	貨客船用水管ボイラ要目	87
12	戦時標準船用水管ボイラ要目	90
13	黒潮丸主ボイラ仕様(ラumont・ボイラ)	90
14	昭和初期に製作された蒸気レシプロ機関の仕様・寸法	92
15	戦時標準三段膨張レシプロ機関の仕様・寸法	93
16	レンツ型機関の標準仕様・寸法	94
17	浦賀式低圧タービン付複二段膨張レシプロ機関の仕様・寸法	95
18	三菱船用タービン一覧表	98
19	樫原丸減速装置主要々目	100
20	三菱神戸反動型標準タービン	102
21	三菱神戸造船所リアクション二段減速歯車装置付蒸気タービン(標準型)を装備した船	103
22(a)	石川島3,100PSタービン要目表	107
22(b)	石川島3,100PSタービン減速装置歯車要目表	108
23	黒潮丸9,500PSタービン主機械主要目および材料表	109
24	石川島造船所における商船用蒸気タービンの製造実績	110
25	川崎重工業における船用蒸気タービン(主機)製作集計	110
26	川崎重工業における代表的商船用タービン要目	110
27(a)	日立タービン材料表	114
27(b)	日立製作2,600PSタービン要目表	114
27(c)	日立製作2,600PS減速装置歯車要目表	116
28	日立製作所助川工場のタービン製造実績	115
29(a)	戦時標準甲25型タービン要目	118
29(b)	戦時標準甲25型減速装置要目	117
30	ディーゼル機関技術導入の状況	127
31	わが国に初期に輸入された航洋商船用ディーゼル機関	129
32	わが国で技術導入によって製作された初期の航洋船用ディーゼル機関	130
33	戦時標準船補機製造所	144
34	戦争末期の主要工場の状況	147
35	鋼製倉口蓋を装備した船舶	148
36	浅間丸及び新田丸客室構成表	157

37	浅間丸型船客公室及び船客関係室一覧表	158
38	浅間丸船員室構成及び寝床数一覧表	159
39	浅間丸型厨房器具一覧表	162
40	貨物船船員室定員表(寝床数)	164

図

1	開洋	67
2	清忠丸セメント槽	68
3	宝洋丸中央横断面	75
4	断接縦通二重底構造	75
5	断接縦通二重底構造	75
6	射水丸中央横断面	75
7	2A型船中央横断面	75
8	FK式油槽船中央横断面	76
9	昭洋丸中央横断面	76
10	ITL型油槽船の区画	76
11	低船尾楼甲板船(昭南丸)	76
12	長船尾楼甲板船(宮崎丸)	76
13	二重造殻構造(樫原丸)	77
14	重光式線図	78
15	マイヤ型線図	78
16	球形船首線図(樫原丸)	79
17	直線式線図	79
18	2E型戦時標準船線図	79
19	ユ克蘭・ボイラ	83
20	シンプル・チューブ・ボイラ	83
21	湿焼室式丸ボイラ	83
22	シュミット式過熱装置	84
23	ブルドン・カップス式ボイラ	84
24	ハウデン・ジョンソン式丸ボイラの燃焼室および囲い	85
25	乾燃室式丸ボイラ	85
26	排気、油だき組合わせ丸ボイラ	86
27	客船樫原丸の水管ボイラ組立図	88
28	山彦丸の水管ボイラ組立図	89
29	ラumont・ボイラ装置線図	90
30	黒潮丸主ラumont・ボイラの組立図	91
31	御法川式下込式メカニカル・ストーカ	92
32	三段膨張レシプロ機関	93
33	パウエル・ワツハ式排気タービン及び減速歯車組立図	94
34	弁機構	95
35	レヒータの配置と温度配分	95
36	ユタウエルケン式機関の原理	96
37	排気タービンおよび圧縮機の組立図	96

38	三菱船用タービンの発展経過	97	空気噴油式機関	131
39	ノズル弁の変遷	97	74 高見山丸, 三井 B & W 四サイクル・空気噴油式ディーゼル機関	131
40	黒竜丸のタービンおよび減速装置一般配置	99	75 俊鶴丸, 新潟, ノーベル型二サイクル, 空気噴油式ディーゼル機関	131
41	新田丸のタービンおよび減速装置一般配置	99	76 竜田丸, 三菱 Sulzer 8 ST 68型ディーゼル機関	132
42	樫原丸のタービンおよび減速装置一般配置	100	77 報国丸, 愛国丸, 三井・B & W, 二サイクル, 無気噴油式ディーゼル機関	132
43	戦時標準船甲50型タービンの組立図	101	78 秩父丸, B & W 四サイクル・複働, 空気噴油式ディーゼル機関	132
44	戦時標準船甲50型タービンの減速装置組立図	101	79 関東丸, MAN二サイクル・複働, 無気噴油式ディーゼル機関	132
45	三菱・神戸16型20型反動型標準タービンの全体組立図	104	80 小牧丸, 神戸製鋼・Sulzer 型二サイクル・複働, 無気噴油式ディーゼル機関	132
46	三菱・神戸32型40型反動型標準タービンの全体組立図	105	81 吾妻山丸, 三井・B & W 型, 二サイクル・複働, 無気噴油式ディーゼル機関	133
47	石川島 3,100 P S 高圧タービン	106	82 三菱MS型, 二サイクル・, 無気噴油式ディーゼル機関	134
48	石川島 3,100 P S 低圧タービン	107	83 三菱MS D型, 二サイクル複働, 無気噴油式ディーゼル機関	134
49	石川島 3,100 P S タービン減速装置	108	84 三菱 Y 2 Z 53/90 型機関 (排気ターボ過給実験機関)	136
50	川崎・春幸丸高圧タービン	111	85 船尾管軸受構造	137
51	川崎・春幸丸低圧タービン	111	86 プロペラ軸スリーブに発生したエロージョンの1例 (昭和11年)	138
52	川崎・春幸丸減速装置	112	87 四サイクル補助ディーゼル機関	140
53	復水管渠配置略図	113	88 二サイクル補助ディーゼル機関	141
54	日立製作所 2,600 軸馬力高圧タービン	114	89 川南工業深堀造船所	167
55	日立製作 2,600 軸馬力低圧タービン	115	90 三菱重工業若松造船所	167
56	日立製作 2,600 軸馬力タービン減速装置	116	91 播磨造船松浦工場	168
57	戦時標準甲25型タービンの組立図	117	92 東京造船所	168
58	戦時標準甲25型タービンの減速装置組立図	117	93 鶴見造船所工場配置図 (昭和20年)	176
59	ユニオン型船用石油発動機	119	94 浦賀船渠株式会社浦賀工場	176
60	注水式ミーツ・アンド・ワイズ型船用二サイクル焼玉機関	120	95 川崎造船所本工場配置図	177
61	注水式船用ボリソダ型石油発動機	120	96 播磨造船所工場配置図 (昭和15年)	177
62	大出力無水式焼玉機関組立図	121	97 三井玉造船所平面図 (昭和初期)	178
63	改E型戦時標準焼玉機関	122	98 大阪鉄工所因島工場平面図 (昭和18年)	178
64	新潟, 四サイクル空気噴油式ディーゼル機関組立図	123	99 三菱長崎造船所平面図 (昭和20年)	179
65	三菱ヴィカース機関断面図	123	100 川南工業香焼島造船所配置図	180
66	日本漁船発動機協会設計標準型ディーゼル機関	124	101 鉄機工場配置図	182
67	新潟, 二サイクル無気噴油式ディーゼル機関	125	102 横浜船渠工場配置 (昭和初期)	183
68	海務院25型四サイクル無気噴油式ディーゼル機関	125	103 浅野船渠工場配置	183
69	艦本式戦時標準F 6型ディーゼル機関	126	104 三菱横浜造船所工場配置	183
70	“Selandia”号, 四サイクル B & W 社, 空気噴油式ディーゼル機関	126	105 三菱神戸造船所工場配置	184
71	“Aorangi”号, Sulzer 二サイクル・空気噴油式ディーゼル機関	127		
72	ふろりだ丸および玖馬丸対向二サイクル, 空気噴油式 Fullager 機関	128		
73	もんでびでお丸, 三菱 Sulzer 型二サイクル・			

写真

1	ブルドン・カップス式ボイラの外観写真	84
2	ハウデン・ジョンソン式丸ボイラの本体外観	85
3	黒竜丸用三胴型水管ボイラ	87
4	新田丸用三胴型水管ボイラ	87
5	黒潮丸主ラメント・ボイラの外観	91
6	レンツ型機関外観	95
7	浦賀式低圧タービン付複2段膨張レシプロ機関外観	95
8	ユタウエルケン式機関の外観	96
9	船用ガス機関(大阪発動機製)	119
10	大出力無水式焼玉機関の全影	121
11	四サイクル補助ディーゼル機関	141

第4編 教育機関・研究機関および各種団体等

表

1	東京帝国大学工学部授業科目(船舶工学科関係)(昭和8年)	188
2	造船学科年次別卒業生数	189
3	九州帝国大学工学部造船学専修者試験科目(昭和2年)	189
4	大阪帝国大学工学部造船学科授業科目(昭和9年)	190
5	横浜高等工業学校造船工科学科課程(昭和6年)	191
6	優秀船舶建造助成施設等による主要施設	196
7	造船協会会員の推移(昭和初頭~昭和17年)	201
8	造船協会役員一覧表	201
9	論文発表数(昭和初頭~終戦時)	202
10	委員会	202, 203
11	聯合大会記念大会(昭和初頭~終戦)	203
12	船級船の推移	206
13	わが国におけるロイド船級船の推移	206

第5編 海運, 港湾, 航路標識等

表

1	第一次世界大戦前後における主要海運国の変遷	215
2	世界船腹量と邦船船腹量の推移(大正15年~昭和14年)	216
3	本邦係船船腹量推移	217
4	世界船腹量および係船船腹量推移	218
5	本邦保有船腹量	220
6	新造船の建造と喪失船	220

7	港湾取扱貨物量及び旅客数	222
8	救難各社業績一覧表(終戦時~昭和26年5月)	
9	現有大型航洋救助曳船	226

図

1	運賃・用船料指数推移	216
2	世界貿易量, 船腹量および運賃指数	218

第2部 一般船舶

第1編 船舶

表

1	北米シアトル航路客船(1)	231
2	北米シアトル航路客船(2)	231
3	北米サンフランシスコ航路客船	232
4	浅間丸型客船の最大搭載人員	232
5	浅間丸型客船の各等客室数	232
6	浅間丸, 秩父丸の室内装飾	234
7	浅間丸型客船の太平洋横断記録	234
8	大型優秀客船の計画要目	235
9	南米西岸航路客船	236
10	新田丸型貨客船	241
11	パラオ航路貨客船	243
12	天津航路貨客船(1)	243
13	天津航路貨客船(2)	243
14	大連・天津航路貨客船	244
15	大連航路貨客船	247
16	大連・支那・内地航路貨客船	247
17	南支航路貨客船	247
18	基隆航路貨客船(1)	248
19	基隆航路貨客船(2)	248
20	樺太航路貨客船	252
21	大阪・別府航路客船(1)	253
22	大阪・別府航路客船(2)	254
23	大阪・別府航路客船(3)	254
24	徳島航路客船	255
25	伊豆航路客船	255
26	淡路島航路客船	257
27	赤城山丸および秋葉山丸	258
28	広隆丸型貨物船	261
29	船舶改善助成施設の実績	263
30	S級貨物船	266
31	九州丸および東山丸	268
32	淡路山丸および宏川丸	268
33	4,000総トン級貨物船	270

34	1,000 総トン級貨物船	272
35	海上トラック	273, 274
36	標準船型	274
37	標準船型の要目	275
38	L型船およびH型船の要目	275
39	日本における油送船保有量	276
40	浅喫水貨客船興泰丸要目表	291
41	帆船の船腹の推移	292
42	木製汽船のトン型別船腹の推移	293
43	木鉄製汽船のトン型別船腹の推移	293
44	木船の建造高の推移	294
45	大型木船の例	295
46	昭和16年12月末商船建造状況	295
47	砕氷型貨客船	295
48	第一次戦時標準船 主要要目	297
49	第二次戦時標準船 主要要目	298
50	改6線表による18年度建造計画	300
51	第三次戦時標準船 主要要目	301
52	雑種船 主要要目	302
53	改9線表による19年度建造計画	302
54	第四次戦時標準船 主要要目	303
55	改11線表による20年度建造計画	303
56	戦時中に竣工した小型鋼船	304
57	終戦時工事中の小型鋼船	304
58	第一次戦時標準型木造貨物船要目	305
59	第二次戦時標準船木造貨物船要目	305
60	100 総トン型建造所要資材の比較	306

図

1	北米サンフランシスコ航路客船 浅間丸	233
2	南米東岸航路客船 あるぜんちな丸	238
3	欧州航路貨客船 新田丸	240
4	内地・上海航路貨客船 神戸丸	245
5	内地・大連航路貨客船 吉林丸	246
6	神戸・基隆航路貨客船 高砂丸	249
7	神戸・基隆航路貨客船 富士丸	250
8	北海道・樺太航路貨客船 白海丸	253
9	大阪・別府航路客船 かがね丸	254
10	伊豆航路客船 橘丸	256
11	北米航路貨物船 箱根山丸	259
12	北米航路貨物船 広隆丸	261
13	北米航路貨物船 南海丸	262
14	北米航路貨物船 霧島丸	263
15	北米航路貨物船 能登丸	264
16	世界一周航路貨物船 讃岐丸	267

17	近海航路貨物船 神州丸	269
18	近海航路貨物船 金城山丸	271
19	沿海航路貨物船 開春丸	273
20	油送船 日本丸	277
21	セメント運搬船 清忠丸	280
22	開釜連絡船 金剛丸	283
23	青函連絡船 第一青函丸	285
24	戦時標準船 2AT型貨物船	296
25	戦時標準船 2DRS型貨物船	297
26	戦時標準船 2ERS型貨物船	298
27	戦時標準船 2TL型油送船	299
28	戦時標準船 2TM型油送船	300

写真

1	北米シアトル航路客船 氷川丸	231
2	北米シアトル航路客船 三池丸	231
3	北米サンフランシスコ航路客船 浅間丸	232
4	北米サンフランシスコ航路客船 秩父丸	232
5	浅間丸 一等食堂	235
6	浅間丸 特別室居室	235
7	秩父丸 一等社交室	235
8	秩父丸 一等和室	235
9	南米西岸航路客船 平洋丸	236
10	南米東岸航路客船 さんとす丸	236
11	南米東岸航路客船 ぶえのすあいれす丸	237
12	南米東岸航路客船 あるぜんちな丸	237
13	あるぜんちな丸 社交室	237
14	豪州航路貨客船 阿波丸	239
15	欧州航路貨客船 照国丸	239
16	欧州航路貨客船 新田丸	239
17	八幡丸 一等社交室	241
18	八幡丸 一等食堂	241
19	南アフリカ航路貨客船 報国丸	242
20	ジャバ航路 日蘭丸	242
21	盤谷航路貨客船 盤谷丸	242
22	パラオ航路貨客船 サイパン丸	243
23	天津航路貨客船 長城丸	243
24	大連・天津航路貨客船 万寿丸	244
25	上海航路貨客船 神戸丸	244
26	大連航路貨客船 黒竜丸	245
27	大連・支那・内地航路貨客船 河南丸	247
28	南支航路貨客船 香港丸	247
29	基隆航路貨客船 高千穂丸	248
30	基隆航路貨客船 富士丸	248
31	横浜・高雄航路貨客船 恒春丸	248

32 新潟・北鮮航路貨客船 月山丸…………… 251

33 内地・朝鮮航路貨客船 新京丸…………… 252

34 樺太航路貨客船 白海丸…………… 253

35 山陽航路客船 音戸丸…………… 254

36 別府航路客船 に志き丸…………… 255

37 紀州航路客船 那智丸…………… 255

38 徳島航路客船 徳島丸…………… 255

39 伊豆航路客船 橋丸…………… 256

40 佐渡航路客船 おけさ丸…………… 256

41 淡路島航路客船 しろがね丸…………… 256

42 びわ湖客船 京阪丸…………… 257

43 わが国最初の航洋ディーゼル船 赤城山丸…………… 258

44 北米航路貨物船 ころんびあ丸…………… 259

45 北米航路貨物船 白馬山丸…………… 259

46 北米航路貨物船 幸和丸…………… 259

47 北米航路貨物船 総洋丸…………… 260

48 豪州航路貨物船 志どにい丸…………… 261

49 北米航路貨物船 叢内丸…………… 262

50 北米航路貨物船 霧島丸…………… 263

51 北米航路貨物船 長良丸…………… 265

52 北米航路貨物船 神川丸…………… 266

53 世界一周航路貨物船 相模丸…………… 266

54 北米航路貨物船 金華丸…………… 266

55 北米航路貨物船 東山丸…………… 268

56 近海航路貨物船 那岐山丸…………… 268

57 近海航路貨物船 北洋丸…………… 269

58 近海航路貨物船 妙高丸…………… 270

59 近海航路貨物船 永福丸…………… 270

60 近海航路貨物船 日の丸…………… 270

61 近海航路貨物船 多賀丸…………… 272

62 近海航路貨物船 大阪丸…………… 272

63 近海航路貨物船 住吉丸…………… 272

64 沿海航路貨物船 富士丸…………… 273

65 航洋型油送船 日章丸…………… 276

66 1K型鉦石船 天南丸…………… 278

67 石炭運搬船 竜江丸…………… 279

68 セメント運搬船 清忠丸…………… 279

69 鋼材運搬船 宮崎丸…………… 281

70 関釜連絡船 興安丸…………… 282

71 稚泊連絡船 宗谷丸…………… 282

72 関門連絡船 第五関門丸…………… 282

73 宇高連絡船 第二宇高丸…………… 282

74 青函連絡船 第三青函丸…………… 282

75 バケット式しゅんせつ船 九州丸…………… 284

76 ドラッグサクシオン式しゅんせつ船 新高丸…………… 286

77 耐氷構造付貨客船 白山丸…………… 286

78 砕氷装置付貨客船 白陽丸…………… 286

79 ケーブル船 東洋丸…………… 287

80 海洋気象観測船 凌風丸…………… 288

81 航海練習船 海王丸…………… 288

82 翼車推進器付引船 第一鉄栄丸…………… 289

83 引船兼工作船 住吉丸…………… 289

84 海難救助船 静波丸…………… 290

85 浅喫水貨客船 興泰丸…………… 291

86 湖水用浅喫水客船 さつき丸…………… 291

87 機帆船 第6恭海丸…………… 294

88 戦時標準船 2A型貨物船…………… 299

89 若松造船所で建造中の2E型貨物船…………… 299

90 戦時標準船 2E型貨物船 第十九雲洋丸…………… 300

91 戦時標準船 3B型貨物船 白神山丸…………… 303

92 第二次戦時標準船(木船)…………… 305

93 下賜された帆柱材…………… 306

94 合板船 第一国策丸…………… 306

95 木鉄船 第貳海幸丸…………… 307

96 コンクリート船 第一武智丸…………… 307

97 コンクリート船 第一国策丸…………… 308

第2編 船 政

表

1 第一次船舶改善助成施設による新造船主要件名 313

2 第二次船舶改善助成施設による新造船主要件名 314

3 第三次船舶改善助成施設による新造船主要件名 314

4 優秀船舶建造助成施設による新造船(第一種船) 主要件名…………… 315

5 優秀船舶建造助成施設による新造船(第二種船) 主要件名…………… 316

6 船舶の資格と航行区域…………… 324

7 船舶の資格とその要件…………… 327

8 安全条約関係証書…………… 345

9 海務院の組織…………… 365

10 海務局の本局名称, 位置及び管轄区域並びに支局の位置…………… 365

11 海軍監督官事務所の配置(昭和17.2現在)…………… 366

12 海軍監督官事務所の配置(昭和19.8現在)…………… 367

13 船舶建造資金(逓信省所管)各行割当状況…………… 373

14 日本興業銀行船舶建造資金融通状況…………… 373

15 乾舷減少高の限度…………… 374

16 強化された乾舷減少高の限度…………… 374

17 乾舷減少による喫水増加率及び載貨力増加率… 374

第3部 漁船

第1編 漁船の動向

表

1 わが国漁業生産量の推移…………… 381
 2 魚種別生産量の推移…………… 382
 3 昭和元～20年年次別漁船統計…………… 382
 4 「漁船統計表」の調査（農林省水産局）船種別
 漁船数…………… 383
 5 機関種別漁船数「漁船統計表」による調査…………… 384
 6 昭和元年～昭和20年鋼製漁船建造調…………… 384
 7 漁船用無線電信電話標準型…………… 388
 8 漁船損害発生屯数別危険率（%）…………… 389
 9 戦時標準型木製漁船要目表…………… 390
 10 戦時中鋼製漁船の建造計画と竣工状況 390, 391, 392
 11 戦時標準型鋼製漁船要目表…………… 392

第2編 漁船の技術的發展

表

1 カツオ・マグロ漁業の動向…………… 393
 2 カツオ・マグロ漁船の大きさ別統計…………… 393
 3 カツオ・マグロ漁船の隻数と乗組員数…………… 393
 4 カツオ・マグロ漁船の要目表…………… 394
 5 漁船協会制定農林省推奨標準型漁船表…………… 398
 (1) 鋼製カツオ・マグロ釣漁船
 (2) 木造カツオ・マグロ釣漁船
 6 トロール漁業の動向…………… 402
 7 トロール漁船建造表…………… 402
 8 トロール漁船の要目表…………… 403
 9 鋼製トロール漁船標準要目表…………… 403
 10 鋼製底曳網漁船建造表…………… 405
 11 底曳網漁船の要目表…………… 408
 12 木造揚繰網漁船標準型…………… 409
 13 捕鯨船建造表…………… 410
 14 捕鯨船の要目表…………… 411
 15 漁業指導船建造表…………… 414, 415
 16 漁業練習船建造表…………… 415
 17 漁業取締船建造表（総トン数30トン以上）…………… 417
 18 カニ母船表…………… 418
 19 サケ・マス母船漁業実績表…………… 418
 20 サケ・マス母船表…………… 419
 21 捕鯨母船表…………… 420
 22 タラ釣漁船（北洋・北千島）…………… 421

23 三陸津波被害復旧木造漁船標準型表…………… 421
 (1) 動力漁船
 (2) 無動力漁船
 24 関西風水害復旧木造漁船標準型表…………… 422
 (1) 発動機付漁船
 (2) 無動力漁船
 25 漁船協会制定標準型漁船木造一般漁船…………… 422
 26 漁船協会制定標準型漁船木造突棒漁船及び小型
 捕鯨船…………… 422
 27 昭和13年制定漁船用発動機規格主要項目表…………… 424
 (1) 120馬力以下の4サイクルディゼル機関
 (2) 120馬力を超える4サイクルディゼル機
 関
 (3) 2サイクル焼玉機関

図

1 カツオ・マグロ漁船 第一吉祥丸 一般配置図 395
 2 カツオ・マグロ漁船 第一吉祥丸 中央横断面
 図…………… 396
 3 カツオ・マグロ漁船 第一吉祥丸 線図…………… 397
 4 95トン型木造カツオ・マグロ漁船 線図…………… 399
 5 95トン型木造カツオ・マグロ漁船 中央横断面
 図…………… 400
 6 95トン型木造カツオ・マグロ漁船 一般配置図 401
 7 トロール漁船 駿河丸 一般配置図…………… 404
 8 底曳網漁船 津蘭丸 一般配置図…………… 406
 9 底曳網漁船 津蘭丸 機関室配置図…………… 407
 10 捕鯨船(ディゼル) 文丸 一般配置図…………… 412
 11 捕鯨船(ディゼル) 文丸 線図…………… 413
 12 漁業練習船 神鷹丸 一般配置図…………… 416

第4部 艦艇

第1編 明治大正時代の艦艇建造 技術の概要

表

1 第一期軍備拡張計画…………… 429
 2 明治23年請議の計画…………… 429
 3 第一期第二期海軍拡張計画…………… 430
 4 第三期拡張計画…………… 431
 5 日露戦役軍事費による建艦計画…………… 431
 6 明治40年立案の海軍整備計画…………… 431
 7 明治43年新充実計画の主力艦…………… 432
 8 計画別主力艦建造隻数…………… 432
 9 八四, 八六, 八八艦隊充当艦名…………… 432

10 明治43年新充実計画による補助艦艇…………… 433

11 八四艦隊補助艦艇建造計画(改訂)…………… 433

12 八六艦隊補助艦艇建造計画…………… 434

13 八八艦隊補助艦艇建造計画…………… 434

14 代表艦の発電機…………… 445

15 代表艦の造水装置…………… 446

16 代表艦の水圧ポンプ…………… 446

図

1 二等潜水艦 L₁型 呂52 一般配置図…………… 441

2 二等潜水艦 海中3型 呂17 一般配置図…………… 441

3 一等潜水艦 海大3型a 伊53(→伊153)一般配置図…………… 441

写真

1 戦艦 薩摩…………… 435

2 装甲巡洋艦 伊吹…………… 437

3 二等巡洋艦 大井 昭和5年頃…………… 438

4 二等巡洋艦 夕張 昭和8年…………… 438

5 一等駆逐艦 睦月型 長月…………… 439

第2編 支那事変までの海軍艦艇の造修

表

1 主力艦保有量…………… 450

2 航空母艦保有量…………… 451

3 艦艇に関する条約規程一覧表…………… 452

4 補助艦保有量…………… 452

5 ワシントン条約締結時に於ける建艦状況…………… 454

6 大正12年新補充計画…………… 455

7 大正14年補助艦艇補充計画案…………… 455

8 昭和2年度艦艇補充計画…………… 455

9 昭和3(4)年艦艇補充整備計画…………… 456

10 昭和6年度補助艦艇補充計画…………… 457

11 昭和9年度艦艇建造補充計画…………… 457

12 各国潜水艦建造概要(1927~1937)…………… 487

13 敷設艦要目比較表…………… 492

14 中華民国巡洋艦要目…………… 501

15 満洲国砲艦等要目…………… 501

16 タイ国砲艦建造表…………… 502

17 タイ国海防艦建造表…………… 502

18 タイ国潜水艦建造表…………… 502

19 タイ国潜水艦要目表…………… 503

20 タイ国砲艦・海防艦要目表…………… 503

21 ①計画等艦艇建造予算…………… 504

22 ①計画等艦艇名…………… 505

23 ②計画艦艇建造予算…………… 505

24 ②計画艦艇名…………… 505

25 戦艦建造統計(造船部のみ)…………… 506

26 航空母艦建造統計(造船部のみ)…………… 506

27 巡洋艦建造統計(造船部のみ)…………… 506, 507

28 敷設艦, 潜水母艦, 工作艦建造統計(造船部のみ)…………… 507

29 駆逐艦建造統計(造船部のみ)…………… 508, 509

30 潜水艦建造統計(造船部のみ)…………… 509, 510

31 戦艦, 航空母艦, 改装統計(造船部のみ)…………… 510, 511

図

1 巡洋艦最上型 一般配置図 艦本作成図…………… 469

2 航空母艦 加賀(新造) 一般配置図 艦本作成図…………… 474, 475

3 航空母艦 加賀(改装) 一般配置図 艦本作成図…………… 476, 477

4 一等駆逐艦 吹雪型 潮 一般配置図 完成図(昭11.3.17)…………… 482

5 一等駆逐艦 初春型(新造) 一般配置図 基本計画図…………… 484

6 一等潜水艦 伊68型(→伊168型)(海大6型a) 正面線図…………… 488

7 一等潜水艦 伊6(巡潜2型) 一般配置図…………… 489

8 二等潜水艦 呂33型(海中6型) 一般配置図…………… 489

9 水雷艇 千鳥型 一般配置図 基本計画図…………… 495

10 水雷艇 鴻型 雉 一般艦装図 完成図(昭11.3.17)…………… 496

11 掃海艇 第13号型 一般配置図 基本計画図…………… 497

12 敷設艇 夏島型 一般配置図 基本計画図…………… 500

13 タイ国潜水艦 マツチャーヌ型 一般配置図…………… 503

写真

1 戦艦 金剛 第1次改装公試…………… 461

2 戦艦 榛名 第2次改装公試…………… 461

3 戦艦 山城 改装公試…………… 462

4 戦艦 伊勢 新造公試…………… 462

5 戦艦 日向 昭和18年改造完成…………… 463

6 戦艦 陸奥 新造公試…………… 463

7 戦艦 長門 改装完成…………… 464

8 一等巡洋艦 古鷹 改装公試…………… 465

9 一等巡洋艦 那智 新造公試…………… 466

10 一等巡洋艦 妙高 昭和16年改装公試…………… 466

11 一等巡洋艦 高雄 新造公試…………… 467

12 巡洋艦 最上 新造公試…………… 470

13 航空母艦 赤城 昭和5年…………… 473

14	航空母艦 加賀 昭和11年	478
15	航空母艦 飛龍 新造公試	481
16	一等駆逐艦 吹雪 昭和5年	483
17	一等駆逐艦 電 性能改善公試 昭和11年	483
18	一等駆逐艦 子日 性能改善公試 昭和9年	485
19	伊号第68潜水艦(→伊号第168潜水艦)新造改試	487
20	伊号第8潜水艦 昭和14年	488
21	潜水母艦 大鯨 昭和14年	491
22	潜水母艦 剣埼 新造公試	491
23	敷設艦 白鷹 昭和15年	493
24	敷設艦 八重山 新造公試	493
25	水雷艇 鵠 新造完成	497
26	駆潜艇第3号 新造完成	498
27	中華民國巡洋艦 寧海 昭和7年	500
28	満洲国砲艦 親仁 昭和10年	501
29	タイ国砲艦 トンブリ 新造完成	502
30	タイ国海防艦 ターチン 新造完成	502
31	タイ国潜水艦 マッチャーヌ 新造完成	502

第3編 第二次世界大戦終結まで

表

1	③計画建造の艦艇	514
2	④計画建造の艦艇	515
3	⑤計画と改⑤計画の艦艇隻数	516
4	⑥計画建造の艦艇	517
5	⑦計画建造の艦艇	518
6	⑧計画建造の艦艇	518
7	改⑤計画の建造艦艇	518
8	空母増勢計画の年度割隻数	519
9	⑨計画の建造艦艇	519
10	建造すべき部隊機動用, 補給用, 局地防備用艦艇	520
11	第3段戦備の実行計画	520
12	昭和20年度前期建造艦艇	521
13	海軍の水中及び水上特攻兵器の生産計画	521
14	大和型戦艦主要々目等(計画)	526
15	大和重量配分表(完成公試状態)	526
16	戦艦伊勢 復原性能比較表	535
17	重巡洋艦改装後の要目表	553
18	標的艦攝津主要部防御計画	578
19	特設艦船一覧表	584~593
20	船主別, 特設艦船隻数一覧表	593
21	魚雷艇・隼艇要目表	597
22	各型魚雷艇建造実績	598

23	震洋(㊦艇)要目表	600
24	特型運貨船要目表	601
25	装載短艇要目表	604
26	潜水艦建造計画と完成隻数	606
27	甲標的, 海龍等要目表	616
28	終戦迄の蛟龍建造実績	617
29	終戦迄の海龍建造実績	618
30	③計画艦艇建造予算	619
31	③計画艦艇建造予算内訳	619
32	③計画艦艇改正建造予算	620
33	戦艦大和建造費	620
34	戦艦大和建造統計(呉造船部のみ)	620
35	戦艦大和建造重量・工数統計(呉造船部のみ)	620
36	③計画 艦艇建造統計(造船部のみ)	621
37	昭和13年度計画艦建造予算内訳	621
38	④計画 艦艇建造予算	622
39	④計画 艦艇建造予算内訳	622
40	④計画 艦艇建造統計(造船部のみ)	623
41	改⑤計画 艦艇建造予算	624
42	㊦計画 艦艇建造予算	624
43	㊧計画 艦艇建造予算	625
44	㊨計画 艦艇建造予算	625
45	㊩計画 艦艇建造予算	625
46	特殊船建造予算	626
47	潜水艦及び輸送艦建造統計(造船部のみ)	626
48	改装工事費統計(造船部のみ)	627

図

1	戦艦 大和 一般配置図 一般艙装図一部改正(昭19.2.7)その他により作成	532
2	航空母艦 祥鳳型 一般配置図 艦本作成図(昭16.12)	542, 543
3	航空母艦 伊吹 一般配置図 技術会議資料	546, 547
4	巡洋艦 五十鈴 一般配置図 完成図(昭19.12.8)	559
5	一等駆逐艦 秋月型 一般配置図 基本計画図	557
6	一等駆逐艦 松型改 一般配置図 基本計画図(昭19.7.3)	559
7	二等輸送艦 第103号型 第129号 一般艙装図 完成図	568, 569
8	敷設艇 神島型 栗島 一般配置図 基本計画図	572
9	駆潜艇 第4号型 第8号 一般艙装図 完成図(昭13.11.30)	573
10	駆潜艇 第13号型 一般配置図 基本計画図	

(昭15. 1. 24) 574

11 標的艦 攝津 防御略図 579

12 標的艦 波勝(上), 大濱(下) 防御配置 580

13 駆潜特務艇 第1号型(試作型) 一般機装図
完成図(昭16. 11. 30) 595

14 潜水作業艇 605

15 一等潜水艦 甲型(伊9潜型) 一般配置図 607

16 一等潜水艦 乙型(伊15潜型) 一般配置図 608

17 一等潜水艦 乙型(伊15潜型) 伊26潜 中央部
構造切断 完成図 608

18 一等潜水艦 丙型(伊16潜型) 一般配置図 609

19 二等潜水艦 海中型(呂35潜型) 一般配置図 610

20 二等潜水艦 潜小型(呂100潜型) 一般配置図 610

21 一等潜水艦 潜特型(伊400潜型) 一般配置図 611

22 一等潜水艦 丁型(伊361潜型) 一般配置図 612

23 二等潜水艦 潜輸小型(波101潜型) 一般配置
図 613

24 一等潜水艦 潜高型(伊201潜型) 一般配置図 613

25 二等潜水艦 潜高小型(波201潜型) 一般配置
図 614

26 上: 甲標的甲型 下: 甲標的丁型 一般配置図 616

27 71号艦 一般配置図 617

28 海龍 外形図 618

写真

1 巡洋戦艦 比叡 新造公試 524

2 戦艦 比叡 改装公試 524

3 戦艦 大和 新造公試 530

4 戦艦 大和 機装中 531

5 航空母艦 翔鶴 新造完成 536

6 航空母艦 大鳳 昭和19年 537

7 航空母艦 隼鷹 昭和20年 540

8 艦空母艦 祥鳳 新造公試 540

9 航空母艦 信濃 福井静夫画 544

10 二等巡洋艦 矢矧 新造完成 550

11 練習巡洋艦 鹿島 新造完成 554

12 一等駆逐艦 野分 新造公試 556

13 一等駆逐艦 秋月 新造公試 558

14 一等駆逐艦 島風 新造公試(40kt) 558

15 一等駆逐艦 桃 新造公試 559

16 水上機母艦 千歳 新造公試 561

17 敷設艦 津軽 新造公試 563

18 砲艦 橋立 新造完成 563

19 砲艦 隅田 新造完成 564

20 海防艦 占守 新造公試 564

21 海防艦 四阪(鷓來型) 新造完成 565

22 海防艦 第17号(丙型) 新造完成 565

23 海防艦 第8号(丁型) 新造公試 566

24 一等輸送艦 第5号 昭和19年8月甲標的搭載
発進実験中 567

25 二等輸送艦 第151号 新造公試 570

26 掃海艇 第29号 新造完成 570

27 敷設艇 平島 新造完成 571

28 駆潜艇 第25号 新造完成 571

29 特務艦(揮発油運搬艦) 足摺新造完成 575

30 特務艦(工作艦) 明石 新造公試 577

31 特務艦(測量艦) 筑紫 新造完成 578

32 標的艦 波勝 新造完成 581

33 特設巡洋艦 報國丸 昭和17年9月 582

34 特設運送船(給油船) 神國丸 昭和16年9月,
機装完成 583

35 第68号駆潜特務艇及び第31号哨戒特務艇 昭和
21年掃海任務に使用時 594

36 電纜敷設艇 初島 新造完成 596

37 第2号魚雷艇 新造公試 597

38 震洋1型改1 昭和19年 599

39 乙型 伊号第26潜水艦 新造公試 609

40 丙型 伊号第16潜水艦 新造公試 609

41 海中型 呂号第46潜水艦 新造完成 609

42 潜特型 伊号第402潜水艦 昭和20年秋 611

43 潜高型 伊号第202潜水艦 新造完成 614

44 潜高小型 波号第201型潜水艦 昭和20年9月 614

45 甲標的 昭和19年8月 第5号輸送艦上 615

第4編 艦艇建造技術の発達

表

1 艦艇復原性能摘要表 637

2 艦艇旋回力標準 638

3 艦艇復原性能比較表 639, 640

4 耐圧殻圧壊実験一覧表 643

5 潜水艦耐爆実験一覧表 643

6 第四艦隊事故対策前後の縦応力比較 654

7 甲鉄のFM値 656

8 (1) 均質甲鉄の耐弾力 656
(2) DS板の耐弾力 656

9 駆逐艦燃料消費率比較 663

10 駆逐艦ロ号艦本式ボイラの変遷 665

11 ボイラの発達概要 665

12 初春型減速装置重量比較 668

13	戦艦及航空母艦蒸気主機発達概要	672	8	戦艦大和主機構造	673
14	巡洋艦タービン主機発達概要	674	9	航空母艦翔鶴主機構造	673
15	駆逐艦タービン主機発達概要	675	10	駆逐艦島風主機構造	674
16	外国技術による潜水艦用ディーゼル主機一覧表	676	11	ディーゼル主機発達概要	676, 677
17	ディーゼル主機発達の概要	677	12	艦本式2号10型機械	678
18	昭和9年以降の艦艇主要ディーゼル	679	13	艦本式22号10型機械	678
19	代表艦発電機例	684	14	艦本式23号機械	678
20	潜水艦補助発電機例	684	15	艦本式51号機械	678
21	代表艦艇プロペラ要目表	686	16	艦本式71号(ガソリン)機械	678
22	機械室通風機例	687	17	マ式3号機械	678
23	広機関研究部主要実験研究項目例	688	18	中速400機械	678
24	大和公試運転成績抜萃	689	19	戦艦大和機関室配置	689
25	金剛型ボイラ内訳	690	20	戦艦長門改装機関室配置	690
26	大鳳, 翔鶴巡航タービン力量比較	691	21	戦艦伊勢改装機関室配置	690
27	香取型主機使用要領	693	22	戦艦扶桑改装機関室配置	690
28	機関部重量内訳	699	23	戦艦金剛改装機関室配置	691
29	大口徑砲及び砲塔の主要性能	701	24	航空母艦飛龍機関室配置	691
30	20 cm 砲及び砲塔の主要性能	702	25	航空母艦大鳳機関室配置	691
31	15.5 cm 砲及び3連装砲塔の主要性能	703	26	航空母艦伊吹機関室配置	691
32	15 cm 砲以下の中小口径砲の主要性能	703	27	航空母艦龍鳳機関室配置	691
33	潜水艦用平射砲及び高角砲	704	28	(上) 巡洋艦最上機関室配置	692
34	各種高角砲の主要性能	705		(下) 巡洋艦鈴谷室配置	692
35	射撃指揮装置の概要及び民間製造所	706	29	巡洋艦大淀機関室配置	693
36	各種方位盤照準装置の概要	706	30	練習巡洋艦香取機関室配置	693
37	各種大型測距儀の概要	707	31	水上機母艦千歳機関室配置	693
38	九一式徹甲弾の要目	707	32	水上機母艦瑞穂機関室配置	693
39	各種魚雷の要目と性能	710	33	水上機母艦日進機関室配置	693
40	機雷一覧表	713	34	水上機母艦秋津洲機関室配置	693
41	爆雷一覧表	713	35	潜水母艦剣埼機関室配置	693
42	艦艇爆雷兵装一覧表	713	36	敷設艦初鷹機関室配置	694
43	甲鉄の種類と化学成分	718	37	砲艦橋立機関室配置	694
44	甲鉄裏面の機械的性質	719	38	砲艦伏見機関室配置	694
45	主力艦改装線表	723	39	駆逐艦吹雪機関室配置	695
46	航空母艦赤城・加賀主要目比較及び改装線表	723	40	駆逐艦初春機関室配置	695
47	一等巡洋艦改装線表	724	41	水雷艇鴻機関室配置	695
48	長門, 陸奥, 大和, 武蔵の進水重量	726	42	駆逐艦朝潮機関室配置	695
図			43	駆逐艦陽炎機関室配置	695
1	台風の中心と各艦(隊)との相対的關係位置	650	44	駆逐艦島風機関室配置	696
2	重油漏洩防止装置	661	45	駆逐艦秋月機関室配置	696
3	曳航運貨筒	662	46	駆逐艦松機関室配置	696
4	運砲筒	662	47	伊号第168潜水艦機関室配置	696
5	駆逐艦燃料消費率比較曲線	663	48	伊号第15潜水艦機関室配置	696
6	ボイラ構造の変遷	666, 667	49	呂号第35潜水艦機関室配置	696
7	戦艦型主機発達概要	670, 671	50	呂号第100潜水艦機関室配置	696

51 伊号第 361 潜水艦機関室配置…………… 696

52 海防艦占守機関室配置…………… 697

53 第 2 号海防艦機関室配置…………… 697

54 第 7 号掃海艇機関室配置…………… 697

55 敷設艇測天機関室配置…………… 697

56 測量艦筑紫機関室配置…………… 698

57 揮発油運搬艦洲崎機関室配置…………… 698

58 大和型 46cm 砲 3 連装砲塔…………… 701

59 大和型の九八式方位盤照準装置…………… 707

60 九一式徹甲弾…………… 707

61 空気魚雷標準系統図…………… 708

62 酸素魚雷標準系統図…………… 709

63 各種魚雷の性能比較図…………… 709

64 一式起爆装置概念図…………… 711

65 水上発射管原理図…………… 712

66 無気泡水中発射管原理図…………… 712

67 単艦式大掃海具曳航図…………… 714

68 中防雷具三型（高速艦用）…………… 714

69 伊63潜引揚要領…………… 729

写真

1 第四艦隊事故 夕霧損傷状況…………… 649

2 第四艦隊事故 初雪損傷状況…………… 649

3 電波探信儀（電探 2 号 1 型）…………… 717

4 一等巡洋艦 高雄 建造状況…………… 720, 721

(1) 艦底構造（昭和 3 年 10 月 20 日）

(2) 前部弾火薬庫付近（昭和 4 年 8 月 20 日）

(3) 後部機械室付近（昭和 4 年 11 月 20 日）

(4) 第 1 缶室左舷上部甲鉄取付状況

(5) 缶室上部中甲板，前部砲塔支筒（昭和 5 年 1 月 20 日）

(6) 上甲板を前部から見る（昭和 5 年 3 月 20 日）

(7) 砲塔搭載状況（昭和 6 年 10 月 20 日）

第 5 編 艦船造修の制度，施設及び規格

表

1 艦艇年度別進水量…………… 738

2 海軍工廠，民間造船所への建造割当て方針…………… 738

3 海軍工廠…………… 739

4 海軍工廠造修部及び実験部…………… 739

5 横須賀工廠船台明細表…………… 739

6 横須賀工廠船渠明細表…………… 740

7 横須賀工廠建造主要艦名…………… 742

8 呉工廠船台明細表…………… 742

9 呉工廠船渠明細表…………… 743

10 呉工廠一等輸送艦建造実績…………… 743

11 呉工廠建造主要艦名…………… 745

12 佐世保工廠船台明細表…………… 747

13 佐世保工廠船渠明細表…………… 748

14 佐世保工廠建造主要艦名…………… 748

15 舞鶴工廠船台明細表…………… 749

16 舞鶴工廠船渠明細表…………… 749

17 舞鶴工廠建造主要艦艇名…………… 751

18 外地工作部…………… 751

19 艦艇建造の造船所…………… 752

20 駆潜特務艇建造の造船所…………… 751

21 占領地造船所…………… 753

22 三菱長崎建造主要艦名…………… 754

23 川崎重工建造主要艦艇名…………… 754

24 三菱神戸建造の主要艦名…………… 755

25 浦賀船渠建造の主要艦艇名…………… 755

26 藤永田建造主要艦艇名…………… 756

27 三井玉建造艦艇名…………… 756

28 石川島建造主要艦艇名…………… 757

29 三菱横浜建造主要艦艇名…………… 757

30 播磨造船所建造主要艦艇名…………… 758

31 艦船兵装公試…………… 759

図

1 技術研究所配置図…………… 737

2 横須賀工廠配置図…………… 741

3 呉工廠配置図…………… 744

4 佐世保工廠配置図…………… 746

5 舞鶴工廠配置図…………… 750

第 6 編 陸軍の船艇

表

1 連絡艇要目表…………… 766

2 特殊船…………… 767

第 7 編 艦艇関係の終戦処理

表

1 残存在籍艦艇表…………… 771

2 残存艦艇隻数…………… 772